合織糸・合織混紡糸

田村紡績株式会社

社長　田　村　正　衛

四日市市東茂福町10－17
TEL 0593－65－2156（代表）
郵便番号　512

理事長登壇 ⑥

北信越学連理事長　若山　博（日体大ＯＢ）

北信越における学生ハンドボールの歴史は、昭和22年から26年頃まで富山、新潟、金沢各大学にハンドボール部が設けられた時を第一期とするが、この時は学連結成までこぎつけぬまま消滅してしまった。39年春、金沢大が部を再結成したのを機に富山大、金沢美術工芸大の代表が集まり、数回の打合せを経て、同年11月3日、金沢市で「北信越学連結成記念・第1回リーグ戦」を開催した。本格的な当学連の歩みはこの時に踏み出されたといってよいだろう。

それ以後、加盟校も徐々に増え本州大、信州大、福井大、金沢工大らを加えて一昨年には7大学が揃ったが現在は本州大が部員不足で不参加となり、6校によって運営されている。

加盟校所在地が長野、新潟、富山石川、福井と広大な地域に散るため打合せ会議をもつにも宿泊をともない、春秋のリーグ戦では各大学の負担も大変である。

北信越学連でももっとも悩んでいる問題の一つは地域内の高校有能選手の中央進学による選手不足に加えて各大学の伝統の浅さなどによる競技水準の低さである。

資金の問題も又大きい、インカレの主管、対韓国戦の主管等行ないたい希望もあるが指導者、選手層の薄さに加えて資金を考えるとき、また若干の年月が必要だと断じざるを得ない現況である。一部の大学を除いては全て選手の自己負担によって部が成り立ち連盟としては総当りのリーグ戦を行いたいのであるが旅費プラス宿泊費の増では現状を維持するのがギリギリの線である。

伝統を誇り、優秀選手が集い、多額の部費を持ち、対戦相手にことかかず恵まれた環境（合宿所、練習場等）豊富な練習量を積み日本のトップレベルを行く大学チームには追いつくすがないとするなれば我々地方学連は球界の底辺の一角を担うだけが能であろうか、北信越学連の有り方、役割はと常々思考する昨今である。

もちろん北信越学連にも他に誇れる特色がある。例えば加盟各大学共に競技を行ない得る体育館とグランドを有していること、リーグ戦の開会式には主管大学の学長又は学生部長が出席され開会の挨拶を載くのが恒となっており、課外体育の望ましい姿、大学スポーツ等に言及され、ゲームを観戦しハンドボール競技について質問をされるのが常である。

又加盟大学間の仲の良さも一つの特色であろうか学生同志が大学の特徴を話し、それぞれの専門に或いは人生について語り合いハンドボールを離れての友交も深く人間形成に役立っている。

今後の構想についてであるが、他地区学連との交流を深め具体的には対抗戦、定期戦の開催助成とインカレ開催のための地堅めをしたい。敗犬の遠吠えではないが地域学連としての特質、良さを見出し堅実に歩み続ける心算である。

最後に日本協会への注文を述べさせていただこう。高等専門学校誕生と共に関係者の努力によって、いくつかの高専で部の創設をみた。日本協会での普及、底辺拡大の掛声を聞いて久しいが今日まで高専に対する施策が見られないことは残念なことである。

検討されていることと思うが機関紙の書店販売が出来ないものであろうか、オールドファン或いは組織外のハンドボールファンと競技ピーアールのために多少の犠牲があっても実現して欲しい。

TVによる放映回数の増大について更に努力を願い地方球界に刺激を与えて載きたい。

選手強化について一言申上げたい。昨夏ミュンヘンオリンピック第一戦（対ユーゴ戦）をギョッピンゲンで見る機会を得た。オリンピック技術調査委員報告抜すいに敗因の第一に体格、体力の遠いを指摘しておられる、私も又ハンドボール以前のものの劣性について深く考えさせられた、その一つにラザレビッチ選手の弾力に富んだ柔軟性がある。

これらについて報告、反省等多くの論があったと伝え聞くが、海外からのものを〝ウノミ〟にするのではなく日本人の特長を生かし得るものだけをとり入れて、基礎体力の養成は云うに及ばず日本人に適した日本流ハンドボールの完成を目指しヨーロッパの厚き壁を打破る日の早やからんことを切望するものである。

「ハンドボール」5月号（第108号）目次

理事長登壇⑥……(1)
全日本女子再編成へ……(2)
世界男子選手権 開催国結論もちこす……(2)
訪韓全日本学生決る……(3)
ギョッピンゲン来日……(4)
専門委人選進む……(13)
全日本候補重機を制す……(14)
審判更新料改善を検討へ……(15)
沖縄国体始まる……(16)
第2回全国中学生大会要綱……(16)
自衛隊選手権組み合せ……(16)
新しい流れへの提案……(20)
海外トピックス……(22)
ハンドボールのA・B・C……(24)
九州選抜高校生大会……(30)
各地の記録……(30)
編集後記にかえて……(32)

【表紙写真】ギョッピンゲン対大同製鋼戦から（毎日新聞社撮影）

全日本女子（世界選手権候補選手）改めて発表へ

　第5回世界女子選手権（12月7～15日・ユーゴ）に出場する全日本女子の編成について、日本協会は荒川理事長と井全日本女子監督の話し合いを中心に検討を進めていたが、近く新たな視点に立った「世界選手権候補選手」が発表されることになった。

　同選手権の代表選手については4月のアジア予選出場選手を中心にして、井監督らコーチングスタッフは選考する意向をもっていたが、同予選が韓国の棄権から流会となり（本誌既報）、方針の変更を余儀なくされた。

　しかも、コーチングスタッフ（鈴木義男、池田鉄哉、藤原侑の3氏）は当初の決定どおり、アジア予選予定日（4月14日）で"解散"するという日本協会の決定があり、日本体協の派遣補助金も未定（4月25日現在）のため、コーチングスタッフ、選手ともいっさいを白紙とし、改めて「世界選手権候補選手」をリストアップすることに、荒川――井氏の意見がまとまった。

　正式な決定は5月19日の月例常務理事会となろうが、すでに田村会長も了承しており、今後はこの線で作業が進められよう。

　今のところ候補選手にアジア予選前と同よう20～25名とみられ、消息通はNHK杯（6月22～24日大阪）後または全日本実業団（7月3～8日・岐阜）後に発表されるだろうとみている。しかし、それまでに日本体協の補助金額が決まれば、いきなり代表選手の選考ということも考えられ今後の成り行きが注目される。いずれの場合でもそのメンバーが「昭和48年度女子ナショナル」になることだけは確定的である。

　このメンバーによる強化合宿は早くても7月中旬で、9月に来日予定の西ドイツの有力クラブ「OSC・ラインハウゼン」との対戦も考りょされている。

　コーチングスタッフについては井監督の推せんというのが常識的なみかただ。アジア予選ではこの方法が採られた。早ければ5月中旬にノミネートが行われよう。

　問題は日本協会がコーチの派遣数を明きらかにしてないことでこれは予算がらみが原因。オリンピック時の男子同よう数名がしばらくの間「国内コーチ」という立ち場で井監督をアシストするものとみられる。

OSC・ラインハウゼン来日へ

　日本協会はかねてから来日を希望していた西ドイツの女子クラブ「ラインハウゼン・オリンピックスポーツクラブ」を9月中旬日本に招くことを決め、相手側との交渉をはじめた。同クラブは西ドイツ西部地方リーグに所属、毎シーズン国内のベストエイトに入る有力チームである。

世界男子選手権アジア予選
開催国など結論もちこす

　来年2月28日から3月10日まで東ドイツで開かれる第8回世界（男子）選手権を目指す日本は、本誌既報のとおりアジア地域予選としてイスラエルとの対戦（2試合）を国際ハンドボール連盟（IHF）から義務づけられているがその日程などについて日本協会・荒川清美理事長とイスラエルスポーツ委員会（体協）シュムエル・ラルキン理事長が4月5日午後、東京・岸記念体育会館で1回目の話し合いをした。

　ラルキン氏はアジアウエイトリフティング選手権の打合せのため来日したもので荒川理事長との会見はおよそ2時間にわたって行われた。ラルキン氏はイスラエルハンドボール協会の要望する「テルアビブでの試合開催」を強調、期日については、イスラエル独立25周年記念行事の一つに組みこむことと日本が出場権を獲得した場合、そのまま本大会（東ドイツ）へ乗りこめるよう2月10日前後という案を示した。

　荒川理事長も、IHFの指示するホーム・アンド・アウエイはお互いに不合理で、どちらかが遠征して2試合を引きうけることには異論はなかったが、日本側にも開催の意思があるとしてこの場では結論はでなかった。

　また、遠征国に対する航空費の一部負担についても折り合いがつかず、すべて今後の文書連絡で煮つめることになった。

　このほか、テルアビブに40m×20mのフロア（ウッド）をもつ室内施設のあることが初めて明きらかにされ、混乱する中東情勢下日本が遠征した場合の"安全"に対する荒川理事長の質問にランキル氏は「まったく危険はない」と答えた。

＜解説＞　予選期日についてはIHFは48年10月15日から49年1月15日までの間に終了するよう指定しており、アジア予選を2月に繰りさげて行う場合には特別の許可が必要だ。

　航空費負担額は、日本側は46年秋のオリンピック予選時、イスラエルに対して60%を負担しており荒川理事長は日本が遠征する場合同条件を要求、またIHFもこのようなケースは50%の負担を昨夏の総会で決めているが（＝渡辺和美IHF理事の話）、ラルキン氏は、「一切負担できない。日本の理解を求めたい」としており、もつれそうな雲ゆきである。

　施設については、3年前、全日本がイスラエルに立ち寄った時、屋外のセメントコートで試合をした経験があり、昨春まで国際規格の室内ハンドボール施設はないとされていたが、この点は今回の会見で心配ないことが判った。

日本協会、早急に態度決定へ

　前掲の世界選手権アジア地域予選日本イスラエル戦について日本協会常務理事会は4月7日、荒川理事長から報告を聞き、早急に会長、理事長及び渡辺IHF理事（日本協会副会長）らによって日本側の態度を固めることに決めた。

訪韓全日本学生選手（男女）決まる

全日本学連は6月6日から10日間、韓国各地で行われる予定の第7回（女子第2回）日韓学生親善試合に出場する全日本学生選抜軍男女各14名を別表のように決定した。

代表選手は3月に東京で開かれた選考会によって選ばれたもので男子は10名が全日本ジュニア、中村（大体大）、夏目（中京）は一昨年につづき2度目の遠征、堀合（福島大）は東北学連から初の学生ナショナル選手である。

女子の全日本学生が外国遠征するのは初めて。FPは日体大6選手が中心になっている。

なお、役員は監督に滝口三郎全日本学連理事のほか男子コーチに北川勇喜、女子コーチに藤原侑の両日体大監督がそれぞれ確定。審判視察員として宇津野年一全日本学連審判部長が同行する。マネジャーは男子が岡田修君（中大4年 全日本学連委員長）、女子が繁田純子さん（日体大4年、全日本学連会計委員）に決定した。団長は5月中旬に決まる。

男子のこれまでの成績は日本側の32戦21勝8敗3分（うち7人制は26戦15勝8敗3分）、女子は日本側の2勝1敗1分（いずれも対梨花大、7人制）。

韓国での対戦相手は未定である

韓国遠征代表選手名簿

【男子】

	身長 (cm)	体重 (kg)
▽GK		
○福井　秀人（中　京　大4）	179.	71
○柴田　正章（法　　　大2）	185.	73
▽FP		
○細江　守男（日　体　大4）	174.	73
○喜井　美雄（日　体　大3）	178.	75
○菊池　　悟（早　　　大3）	186.	85
川畑　幸永（早　　　大3）	170.	65
○中村　博之（大　体　大4）	179.	73
白柳　　進（大　体　大4）	177.	70
山村　佳生（中　　　大4）	174.	71
○津川　　昭（大　経　大4）	180.	72
○牧野　彰文（同志社大4）	174.	67
○夏目　真治（中　京　大4）	181.	72
堀合　誠蔵（福　島　大3）	170.	65
○村田　幸男（法　　　大2）	176.	68

○印は全日本ジュニア

【女子】

	身長 (cm)	体重 (kg)
▽GK		
松井　規子（東　教　大4）	164.	64
堀川登紀子（大　体　大4）	158.	55
▽FP		
小林　信子（日　体　大4）	154.	53
松本みどり（日　体　大3）	156.	60
坂本　陽子（日　体　大3）	168.	64
木元　典子（日　体　大2）	165.	62
藤山　聖子（日　体　大2）	161.	57
坂上　節子（日　体　大3）	156.	57
堀川　景子（大　体　大4）	158.	55
高市　陽子（大　体　大2）	164.	61
畑中多恵子（東　教　大4）	157.	54
松本　良子（中　京　大4）		
安井　栄子（中京女大4）		
西田　恵子（東女体大3）	154.	53

校名の横数字は学年

日韓女子社会人、来春に

全日本実連は4月15日名古屋で理事会を開き、5月に予定していた第3回日韓女子社会人交流を来春まで延期するよう韓国側と話しあうことになった。

6月のNHK杯（大阪）に引きつづき7月の全日本実業団選手権（岐阜）とビッグエベントがつづき受け入れ側の実業団チームの態勢がととのわないためである。

荒川氏、スポーツ科学委員などに　日本体協

日本体育協会は4月18日東京で理事会を開き9つの委員会の担当（派遣）理事などを決めた。荒川清美理事（日本ハンドボール協会理事長）はスポーツ科学委員のほか日本スポーツ少年団本部への派遣理事に決まった。また、保坂周助氏（日本ハンドボール協会副会長）は前期に引きつづき国体委員長をつとめる。

NHK杯選考委員

日本協会は6月22日から24日まで大阪市中央体育館で行う第20回NHK杯全日本選抜大会の出場チーム選考委員会を日本協会理事8氏により次のように編成した。選考委員会は5月12日東京で開かれる予定。

なお、出場チームは2月の全国評議員会、同理事会で男子が実業団2、学生、教職員各1、女子が実業団3、学生1に決まっている

【選考委員】荒川清美（委員長）、泉正明、中沢重夫、片瀬喜代次、安藤純光、滝口三郎、杉山茂　ほか1名未定。

藤本氏（本誌編集長）が辞任

藤本強日本協会常務理事（東大出、東大助教授）はこのほど勤務地の異動があったため、辞表を提出、日本協会は4月7日の月例常務理事会で受理した。

藤本氏は42年から本誌編集長をつとめたほか、荒川体制の推進役の一人として内外の渉外・企画活動に重きをなしてきた。勤務上の理由とあってはやむをえぬが、同氏の辞任により執行部の手なおしも予想されるなど影響は大きい。

日独親善

日本勢、初の勝ちこし飾る

精彩欠いた名門ギョッピンゲン

新シリーズの開幕を飾る西ドイツの名門「フリッシュ・アウフ（FA）・ギョッピンゲン」招待シリーズは4月15・16・18日の3日間名古屋、京都、大阪の3都市で行われ、日本勢が2勝1敗と気勢をあげた。ヨーロッパから訪れた一流チームに対し日本チームが勝ちこしたのは男女を通じてはじめてである。

西ドイツの国内選手権でこれまで11回の優勝を誇り、今シーズン第2位となった「FA・ギョッピンゲン」H・ツエラー団長ら一行20名は4月14日午後日航機で来日、まず15日、全日本実業団1位の大同製鋼（愛知）と対戦した。大同は立ちあがりから気力にあふれたスピードプレーで圧倒、会心の勝利をあげた。第2戦の16日は全京都産業大が挑んだが、ギョッピンゲンは地力を発揮して制勝。最終戦は18日全日本チャンピオンの湧永薬品（大阪）と顔を合せ、激しいゲームを展開したが、湧永が粘り勝った。

国内における日独親善試合はこれで11回目（第1回は昭和13年のヒットラー・ユーゲント来日）。一行は19日朝、BOAC機で帰途についた。

大同、守りの強さが勝因

第1戦・大同製鋼（愛知）との試合は4月15日午後3時32分から名古屋の愛知県体育館で行われた。審判＝稲石三二（国際審判員）、奥村方志。観衆約三千。

大同製鋼 27（13－6／14－12）18 FA・ギョッピンゲン

【大同】	得
GK 柳川兄	0
FP 野田	2
藤中	4
加藤	2
中井	4
松原	5
花輪	10
7MT（2）	27

【ギョッピンゲン】	得
GK ブロドベック	0
フィンクバイナー	0
FP エップレ	6
フリヨガー	1
パッツアー	2
ミョラー	3
ブッヒャー	4
フィッシャー	1
ドン	0
ジーガー	1
エムリッヒ	0
シュバイカルト	0
（3）	18

後記

改田智洋（朝日新聞名古屋本社運動部）

大同製鋼が快勝した。勝因は大同の動きの速いディフェンスにあった。

この試合のために考えたディフェンスを一週間前からみっちり練習したと中浜監督のいうディフェンスは、1－5の正常のディフェンスに半マンツーマンを組合せたものだった。トップには花輪。左から攻めて来るギョッピンゲンの選手には藤中がつき、そのあなを中井がうめる。右は加藤を中心にして野田がピストンで動く。完全なマンツーマンではなく、バスケットボールのゾーン・プレスに似ている。それも早い時点でつくからギョッピンゲンも思うようにシュートが打てなかった。さらにこのディフェンスはGK柳川清とのコンビネーションも合っていた。だから柳川は守備範囲が広いという定評通りの動きが出来、再三ギョッピンゲンのシュートを防いでチームを盛上げていた。

このディフェンスの成功が、オフェンスに結びついた。試合開始1分、大同はミョラーの左45度からのシュートで先取点を奪われた。しかしすぐ花輪が中央からアンダーシュートでかえす。このシュート、大型外人に対して効果のあるものだ。さらに左サイドをタテつく速攻で、中井－花輪の速攻などで一気に差を開げた。

しかしこのあとギョッピンゲンが反撃に出た。ミュンヘン五輪の代表選手ブッヒャー－フィッシャーのポストプレー、ブッヒャー－エップレと渡る速攻で加点、またたく間に1点差に迫った。巧者ブッヒャーを中心とした攻撃にエンジンがかかったかに思えた。

大同としてはピンチだ。この危機を中井がうまいプレーで救った。パスワークのあと左にパスを出そうとする、ギョッピンゲンのディフェンスが動く。中井の前がポカッとあいた。このチャンスを逃さずシュートして差を開げた。これでチームはペースを取りもどし、8－3とリードを奪った。このあとはまったく大同のペース。野田がチャンスメーカーとなり、花輪、松原のポストプレーが生きた。またバークハルトマイヤー・コーチに「激しい、いい動きをする選手」といわせた藤中のプレーも見逃すことは出来ない。

それにしてもこの試合を見た限りではギョッピンゲンは期待はずれだった。攻撃陣があまりにもはいりすぎて大同のディフェンスのペースにまき込まれ、チームプレーがほとんど出なかった。長身を生かすロングシュートも打つタイミングが悪いうえに、押えがきいていないので決らない。まったく雑な攻撃だ。二日間ほとんど寝ていないし、気候の変化で疲れていたため持てる力の半分も出せなかったのだろう。

日独親善試合の記録（国内，男子）

（年月）	（相手チーム）	（日本の成績）
①昭13. 9	ヒットラー・ユーゲント	1勝
②昭15. 6	在日ドイツ人選抜	2勝
③昭17. 11	訪日ドイツ艦隊選抜	1勝
④昭18. 12	在日ドイツ人選抜	1分
⑤昭31. 9	西ドイツナショナル	8敗
	～以上11人制～	
⑥昭40. 3	ドイチュランド号チーム	1勝
⑦昭42. 9	西ドイツ選抜	3勝10敗
⑧昭46. 4	グンメルスバッハ	1勝5敗
⑨昭47. 3	THW・キール	1勝2敗
⑩昭47. 4	GW・ダンケルセン	1勝2敗
⑪昭48. 4	FA・ギョッピンゲン	2勝1敗

監督不在のギョッピンゲン

今回のシリーズでギョッピンゲンの指揮をとったバークハルトマイヤー氏は実はマネジャー、それというのも3月いっぱいでマイスター監督が勤務の都合で退任したからだ。ツエラー団長は「帰国したらさっそく監督さがしです」と肩をすぼめた。

技術評

荒川　清美

クラブチームとして来日したなかでは史上最強という前評判のギョッピンゲンも、さすがに遠征疲れ、時差調整には勝てず、しかも来日直前、看板選手の一人、GKラトイエン（オリンピック代表）の退団が重なったため、まったくよいところなく敗れた。

開始早々、ギョッピンゲンは左45度で得たフリースローをミョラーがスタンディングからスピードコースとも申し分ないシュートを決め、さすがと思わせたが、そのあとの攻撃は尻すぼみ。

ショートパスのタイミングがずれ、力まかせに射つロングシュートは高目に浮いてしまう。不調でもあったが、ここは大同ディフェンスの健闘を賞したい。

マン・ツウ・マン気味についてパッツアー、ミョラー、フィッシャーらの長身選手を封じ、ブッヒャーを主力とするポストプレーには、はさみこむような〝当り〟で動きをとめたのである。

相手の展開に対するよみが確実であったため、この守備は完ぺきといえた。このような粘っこいプレーは、非常に体力を必要とするが「勝とう」とする気力がそれを支えた。

ギョッピンゲンがベストコンディションであったとしても、そう易々と崩されなかっただろう。

GKの差も勝負の明暗につながった。大同・柳川兄がシャープなフットワークで、ほとんどシュートコースに体を向けていたのに対し、ギョッピンゲンのブロドベック（前半）フィングバイネル（後半）は、ストップした時でさえバランスがくずれ、FPのディフェンス網がアンダーシュートに無警戒であったこともあり、いいようにゆさぶられていた。

欧州勢から勝ち星をあげるには相手がナショナルであれ、クラブであれ、ディフェンスの力が大きなウエイトを占めることは、以前からさかんにいわれていたが、この日の大同製鋼はみごとにそれをやってのけたといえる。

攻撃面ではエップレ、ブッヒャーが目についた。ロングシューター陣が大同ディフェンスに密着され、踏みこみが深すぎて終始一本調子という無策に引きかえ、この二人はブロック（スクリーン）をかけたり、トリッキーなバックハンドパスを使うなど、なんとか突破口を切り開こうという変化をみせた。後半18分には、このチームのかつてのコーチ、ベルンハルト・ケンパが考案した「ケンパ・トリック」（10m地点からエリアの空間にボールをトスし、ポストプレイヤーがとびこむスカイプレーに似た攻撃）をみせるなどもした。

大同では新加入の花輪がのびのびとした動きで抜群。中井、藤中の安定、松原の進境、加藤の渋さ野田の勝負強さとカラーフルな布陣は今シーズンの活躍が大いに楽しみである。

ギョッピンゲンには気の毒なコンディションであったが、大同の発らつとした攻守、とりわけ一歩の休みもなく動きつづけた守りのまとまりは、日本の対欧州作戦に一つの自信を与えたものとして印象に残るゲームであった。

単独チームがこのような形で、たとえコンディションが悪かったとはいえ、勝利を握ることができたのは、今後の日本のハンドボールの将来に明るい見通しを与えたもので、きわめてよろこばしい。

このような形で単独チームが、どしどし勝てるようになればナショナルチームにも宿願の達成する日がくることになろう。

（日本協会理事長・談＝愛知県体育館記者クラブで）

FA・ギョッピンゲン来日メンバー

▽団　　長　H・ツェラー (51)　FAGハンドボール部長
▽コーチ　A・バークハルトスマイヤー (46)
▽トレーナー　H・ギュントネル (38)
▽広　　報　R・ダフェルナー (38)
▽渉　　外　H・ユブル (33)
▽総　　務　H・トリック (50)

	氏名	身長	体重	職業	
GK	□H・ブロドベック (24)	178	70	銀行員	・
	H・F・フィングバイネル(20)	183	77	学生	・
FP	△P・エップレ (25)	180	71	技師	⑦
	△W・フリヨガー (33)	180	80	学園管理者	①
	□A・エムリッヒ (21)	194	94	学生	⑥
	△C・パッツアー (29)	194	94	技師	⑥
	△M・ミョラー (27)	179	75	警察学校教官	⑤
	△P・ブッヒャー (26)	176	72	商店員	⑫
	G・シュパアイカルト(24)	174	75	商店員	・
	□W・フィッシャー (22)	182	78	学生	⑤
	W・アルント (28)	174	76	教師	⑥
	□W・ドン (23)	191	75	商店員	③
	S・ジーガー (24)	191	80	手工芸師	①
	D・グロス (22)	182	80	学生	①

（ ）内は年齢。身長はcm，体重はkg。
○内数字に日本における得点（3試合）
△印はナショナルプレイヤー（パッツアーはオーストリア，フリヨガーは元）
□印はナショナルB

第1戦・前半29分フリヨガーのあざやかなダイビングシュート。（朝日新聞社撮影）

全京産大、先行むなし

ギョッピンゲン、地力を発揮

第2戦・全京都産業大（京都）との試合は16日午後6時から京都市体育館で行なわれた。審判＝岡本克彰（国際審判員）、藤本昇。観衆約一千五百。

FA・ギョッピンゲン 18（10—7、8—3）10 全京都産業大

得	【ギョッピンゲン】		【全京都産業大】	得
0	フィンクバイナー	GK	日比（現役）	0
0	ブロドベック	GK	東口（〃）	0
1	エップレ	FP	林（OB）	1
0	フリヨガー	FP	垣内（〃）	2
3	エムリッヒ	FP	福井（現役）	3
2	パッツアー	FP	戸田（〃）	0
0	ミヨラー	FP	滝本（〃）	0
5	ブッヒャー	FP	大原（〃）	4
1	シュバイカルト	FP	西沢（〃）	0
2	フィッシャー	FP	中前（〃）	0
3	アルント	FP	天本（〃）	0
1	ドン	FP	荻野（〃）	0
18	（1）	7MT	（0）	10

後記

小山 敏昭（共同通信社運動部）

本場西ドイツ・ブンデスリーガ（1部リーグ）でVfL・グンメルスバッハと決勝を争った強豪ゲッピンゲン。第1戦の大同製鋼戦こそ旅の疲れから敗れたものの、この日はその〝実力〟の片りんをのぞかせた。

立ち上がりは全京産大も若さにモノをいわせ、好ゲームを展開した。実業団からOBの林（本田技研）、垣内（ワコール）の二人を補強、全日本ジュニアにも選ばれた福井を中心に、コンビネーションプレー、速攻で対抗した。特にシュートをゲッピンゲンGKの弱点足元に集め、5分過ぎには小原がミドルシュートして4—2とリードを奪った。『二度目の国際ゲームで、何とか一矢報いたい』全京産大の激しい気迫がゲッピンゲンの度胆を抜いたようだった。

しかしこの気迫も10分過ぎには早くも息切れ、動きが単調になってしまった。そんなスキをゲッピンゲンが見逃すはずはなかった。ミュンヘンオリンピック代表選手だったP・ブッヒャーにボールを集めて反撃を開始した。194センチという長身のA・エムリッヒ得意のポストプレーを決めてあっさり同点に追いつき、20分にはW・アルントが速攻を決め逆転してしまった。その後もオーストリアのナショナルプレーヤーという異色のC・パッツアーがパスカットから加点し、前半を10—7とリードして終了した。

3点の差は全京産大にとってみれば決して追いつけない点差ではなかったがゲッピンゲンはプレーにすっかりゆとりを持ってしまったようだ。『西ドイツでもそう使うわけではない』（バークハルトスマイスヤーコーチ）という8字型のフォーメーションプレーをおりまぜて、全京産大ディフェンスをほんろう、着々と点差を開いていった。特に圧観だったのが、ブッヒャーのプレー。176センチ72キロと決して恵まれた体つきではないが、リストのきいたパス、シュート、大きなフェイントと一人であばれ回った。

一方、ディフェンスが浮き足立った全京産大は全員が攻撃にもリズムをつかめず、パスミス、オーバーステップなどつまらない凡プレーばかり。スタートメンバーだけをそのまま出場させていただけに、やはりムードを変えるためにも選手交代をすべきだったようだ。後半はわずか3点しか取ることが出来ず、完敗してしまった。

技術評

小西 博喜

立ち上りゲッピンゲンは全産大の速い動きに戸惑った。（相手の動きをじっくり見ていた感じ）21分アルトンの速攻で逆転してからはものすごい拍車をかけてきた。全産大も何とか守勢をはね返そうとしたが、時間を追うごとに集中力がにぶりノーマクミス（一瞬の迷いが原因）、パスミスが目立ち、波に乗り切れなかった。ゲッピンゲンのディフェンスはツメも早くジャンプシュートする余裕を与えなかった。またサイドのディフェンスが7、8米位浮き、マンツウマン気味にマークしているのでパスのリズムを乱された。全産大がストーリングをとられたのもサイドからサイドへのパスが通らなかったため攻めあぐんだ形になった。全産大も直線的な攻撃、45°のロングシュートを止め、ボールまわしでディフェンスを少しでも広げ、その間隙をついてポストのまわり込み、クイックシュートは効果があった。それにしてもポストに入ってブロックや空いたところに移動し、サイドからのスカイプレーもねらったが、徹底して3人位のプッシュをうけ、自由に入れさせないのには手こずった。体格差、パワーの差もあるが、国際試合の経験が少ない為もあった。またゲッピンゲンはゴール前で目まぐるしいほどの小さいパスをつなぐローリングを見せ、体でボールをかくすようにパスをどんどんまわし、各自が全産大ディフェンスに厚い壁をつくり、おおいかぶさる感じだ。全産大は何とかボールを見ようとして前へ出て棒立ちになった

第2戦・前半3分，フイッシャーはミヨラー（中央）からのパスをたくみにタップショット　（京都新聞社提供）

ところでシュートを打たれる。しかし後半ゲッピンゲンのローリングが始まった時、大原が上へ浮いてパスコースを止めたのはよかった（1本だけ）。プレー全体をふり返って、矢張り2人コンビ、3人コンビなど個人的に体の使い方が素晴らしく、もち前のパワーにスピーディーなトリックプレー、そしてシュートコースに走ってくるスピードとその間合いのとり方は抜群。とくにディフェンスとディフェンスの間にシュートモーションをかけて入ってくるとつめぬわけにいかず、そうすると序々にディフェンスにブラインドができ最後はゴール正面から打点の高いシュートを打たれる仕末。一回の攻撃に余分なパスと時間はぶかれており、最少限度のパスで有効に位置をかえて中断させずにシュートまでもってくる。そのため仲間同志の動きをよく知っており、自分でもっていく動きはすべてが徹底して練習されている。しかし中盤でボールカットされると時々あきらめてしまうのでもう少しカットにとび出せば面白かったかも知れない。ブッヒャーは観光中さすがに静かなる英雄という感じだった。

（日本協会技術委員）

ユーゴに正式招待状を発送

日本協会はミュンヘンオリンピック優勝国ユーゴスラビアの招待について検討を続けているが、3月なかば日本側の示した招待案（8月30日〜9月10日・17名・6試合）をユーゴ側が英国海外航空（BCAC）を通じ、「原則的に承諾する」旨を回答してきたため4月5日、正式招待状を発送した。本誌締切り日（4月25日）までにこれに対する返信は来ていない。

ミュラー主将訪問

独身。釣りが趣味だ、という。孤独な感じがする。そういえばシュミット（グンメルスバッハ）もそうだったし、ムンク（ダンケルセン）からも同じ印象をうけた。ナショナルプレイヤー、それも本場ヨーロッパで指折りの選手ともなればすべての面で〝別格扱い〟。自然とそんなムードの男に仕立てられてしまうのかもしれぬ。

――ハンドボールは何歳から。

「15歳、どちらかといえば遅いスタートだ。22歳でナショナルプレイヤーになった。」

――これまでいちばん印象に残っている試合は。

「公式国際試合の出場が間もなく60回になるが、どの試合も厳しい思い出ばかりだ。特に印象深いのは第7回世界選手権（昭45、パリ）の準々決勝・東ドイツ戦だ。16—16で延長に入りそのあと2—1で敗れたが、両チームとも精魂つかいはたした壮烈なゲームだった。」

――西ドイツはオリンピックでは6位、前回の世界選手権では5位。世界の最上位へ再び躍りでられるだろうか。

「ナショナルチームとしての結束力に欠けてはいるが、国内の一つ一つのチームはヨーロッパでも超一流だ。新監督のケスラー氏の統率力は秀れており来年の世界選手権はよい成績が望めると思う」

――あなたがみた現代最高のFPとGKは。

「FPを選ぶのは難しいがグルイア（ルーマニア）とシュミットだろう。GKは文句なしにペヌ（ルーマニア）だ」

――グルイアが今秋から西ドイツのクラブ（TSV・ビルケナウ）に入るそうだが。

「彼の決めたことだし……」

――話は変わるがヨーロッパカップで、ホームチームが絶対有利という傾向に日本ファンは首をかしげているが。

「審判員が身びいきするからだ」

いとも簡単に答えが返って来た。選手は黙っているのか、と聞いたらこれまた明解に「ホームゲームは互いに一試合ずつあるのだぜ」、そしてしばらく間をおいて「でもいいことじゃないよ」。職業は警察官、現場の仕事ではなく警察学校の教官だそうだ。スポーツと仕事の両立、日本ではどうしているのかと逆にたずねられた。1年じゅう試合に追いまくられてはたまらないという理由もあってFA・ギョッピンゲンは3年前から11人制リーグへの参加を辞めた。今回の日本遠征は有給休暇を使ってのもの。

「短かい期間だが日本人の生活や心をできるだけ知りたい」。年齢（27歳）よりふけて見えるこの〝静かな男〟に卒いられて競技場外のFA・ギョッピンゲンはこれまで来日したどのチームよりもおとなしい〝集団〟に感じられた。

判定の「理解」求める態度を

このところ国際試合のたびに話題を投げかけるジャッジングの問題、今回のシリーズの審判面からみた感想をまとめてみた。

（光島磯雄）

警告、退場を科するのは良いがあくまでも相手にその意味を理解させるようにつとめなければならない。特にミュラーに対する追放は親善試合という性格上少し酷に過ぎた感あり。欧州でのやり方が日本と著るしい相違が認められる局面に対し現状はどうしても妥協的な吹笛とならざるを得ぬのは事前に申し合わせを行なうべきではなかろうか？　確かに岡本、丸岡両氏（＝大阪大会）とも懸命の努力で吹いておられたが結果的には日本国内の大会での吹き方と同じになってしまいさわやかな後味とは言いがたいゲームとなってしまったのは真に残念であった。

今後、「国際」と肩書きのつく審判員に対しては（英語でも良いから）局面を外国プレイヤーに理解させうる素養を研修せしめる必要性を改めて痛感させられた。

故意の反則を若芽のうちに摘み取る努力がたりないと、特にエリア前でのオシアイ、ヘシアイ的な場面の続出によりハンドボールの良さはスポイルの一途をたどるのみと感ずる人は決して少なくはないのである。

湧永薬品、激戦にせり勝つ

第3戦（最終戦）・湧永薬品（大阪）との試合は18日午後6時25分から大阪市中央体育館で行われた
審判＝岡本克彰（国際審判員）、丸岡一清、観衆約二千四百

湧永薬品 21（11－10、10－7）17 FA・ギョッピンゲン

【湧永】		得
GK	今井	0
FP	市原	2
	木野	5
	森	5
	高橋	6
	戸田	2
	菅	0
	田中	1
	7MT（3）	21

【ギョッピンゲン】		得
GK	ブロドベック	0
	フィンクバイナー	0
FP	エップレ	0
	エムリッヒ	3
	パッツァー	2
	ミョラー	2
	ブッヒャー	3
	フィッシャー	2
	アルント	3
	ドン	2
	フリョガー	0
	シュバイカルト	0
	（0）	17

後記　小山　敏昭

大同製鋼に次いで湧永薬品が殊勲を立てた。バークハルトスマイヤーギョッピンゲンコーチは試合後審判によって調子が狂ったと悔しさを変な方向にぶつけていたが試合展開は湧永の闘志がはるかに上回わっていた。

第3戦・前半終了直前のポストプレイはギョッピンゲンの荒いディフェンスから7MTを誘う

湧永の平均身長が175センチとギョッピンゲン183センチとその差8センチ、いつも国際試合での日本チームの課題だが、この問題を湧永は早い動きで解決した。『前の2試合を見て、シュートのコース、ポストマンの位置など分析、研究しました』（村中監督）というようにディフェンスは早い当たりとしつようなマーク、一方オフェンスは両サイドをいっぱいに使った攻めでギョッピンゲンを揺さぶった。

立ち上がり1分、市原が正面から決めて先制、3－3と同点に追いつかれると12分、右サイドから高橋が倒れ込みシュートを決めて突き放し、常に先手をとった。

勝負の他にも、ミュンヘン・オリンピック代表選手だった二人のリード・オフ・マン、湧永の木野、ギョッピンゲンのブッヒャーと駆け引きがみものだった。しかし全日本の主将を長く務め、国際試合も経験豊富な木野の方に、パスワーク、選手の使い方など一日の長があった。

29分には木野が7MTを慎重に決めて、前半を10－7と湧永がリードした。

ところがギッピンゲンは後半、猛反撃を開始した。その火付け役となったのが、インターフェアーによるM・ミューラーの退場だった。2分間の退場処分を受け、べ

パッツアー選手訪問

ふだんの活動はすべてFA・ギョッピンゲン、そしてオーストリアナショナルの一員というパッツアー選手。日本のファンには〝異色〟にみえる。

──オーストリアナショナルに選ばれてからギョッピンゲン入りしたのか、それともギョッピンゲンでの活躍が認められてオーストリアナショナルに加ったのか。

「5年前まではオーストリアリーグのリンツでプレー、その時ナショナルに選ばれた。ギョッピンゲンに入ったのはそれからあと」

──ギョッピンゲンに誘われたのか。

「ハンドボールをつづけるなら西ドイツで、と思っていたので一家（夫人と長男）で移った。将来はスポーツ教師になりたい」

──急にオーストリアナショナルへ戻ってもコンビネーションなどは心配ないのか。

「別に問題はない。」

かつて近森克彦選手が西ドイツのハンブルグSV入りする時日本協会は、同選手に全日本候補の辞退届を出させている。〝感覚〟がちがうのである。パッツアー選手もなぜこのようなことが話題になるのか不思議そうであった。

──オーストリアハンドボール界の現状は

「アルペンスキーが少年たちの憧れであり、シーズンが同じハンドボールは伸びにくい。世界選手権出場も目指してはいるが難しい。同じ力のクラスではフランス、ブルガリアが強い」

──日本のハンドボールについて

「ミュンヘンオリンピックのユーゴ戦を観た。速いプレーが印象に残っている。オーストリアはとてもかなうまい」

──11人制は相変らず盛んか

「残念ながら下火だ。全国リーグは近い将来なくなるのではないか。世界選手権を開いたことなど昔話みたいだ」

威勢のよくないインタビュートになってしまった。オーストリアといえば国際ハンドボール界の草分け的存在。ベルリン・オリンピック（昭11、11人制）ではドイツに次いで2位、7人制でも第1回世界選手権（昭和13）には準優勝している。名門復活を期して待ちたいと思うのだが──。

ンチに座ったミューラーのところへボールが飛んだ。ミューラーはそのボールを取りに来た湧永選手には目もくれずに他投、岡本レフェリーはすかさず失格処分をくだした。このレフェリーの裁定に不満を示し、おこったギョッピンゲンの選手はそのいかりをシュートに結びつけた。W・ドン、W・アルントが速攻、ポストプレーを決め、25分過ぎには17―18とわずか1点差まで詰め寄り、観衆を多いにわかせた。大きな身体を張って必死に得点しようとするプレーはまさに迫力があった。

だが反撃もここまで。木野の落ち着いたプレーがギョッピンゲンの息の根を止めてしまった。27分相手GKの動きを見て、足元へバウンドシュート、20秒後には木野、森とうまいパスを継いで速攻を決め再び3点差にしてしまった。ここで『勝負あった』というムードだった。

『競技というより、闘争というかんじだった』というバークハルトスマイヤー・コーチの言葉通り、鼻血を出したり、身体中アザだらけになった小柄な湧永選手の健闘ぶりが印象に残ったゲームだった。

ブッヒャー選手訪問

ミュンヘン・オリンピック西ドイツ代表のなかでいちばん得点をあげた男・ブッヒャーは1m76、72kgと〝小柄〟である。

パワーハンドボールの傾向が強い昨今、彼の奮闘は日本選手にも示唆するものが多かろう。

――小柄なあなたが他の選手に伍してナショナルチームのレギュラーの位置を保つのは大変だろう

「たしかにそうだ。他の選手にない技能を持つことに努力している」

――たとえば

「走りまわること、パッサーにもシューターにもなれること、ポストプレーのキー（主役）になることなどかナ」

――俊足という定評だが

「日本選手にはかなわない(笑)」

――ミュンヘン・オリンピックはどうだった

「3～4位にはなれるかと思っていたが6位とは悪すぎた。だからあまりよい思い出になりそうもない。モントリオール？それより来年の世界選手権が気になる」

――何才からハンドボールを始めたのか

「13才。左利きであったことがずい分役立っている。」

バークハルトスマイヤー・コーチの話だと彼は大変な怪力だという。そしてつねに新しいプレーを考えているともいった。

来日第1戦（名古屋）の前半はあまり試合に出なかった。

「野田のプレーをじっくり見たいからコーチに頼んだのさ」。

やることがすべてソツなく俊敏のようだ…。

（ミョラー、パッツアー、ブッヒャー3選手訪問の企画には日本協会・一宮昌平国際委員に通訳をねがいました。）

技術評

光島　磯雄

ゲーム開始後2分にして市原が中央からミドルを右上方に決めその後ギョッピンゲン（FAG）はブッヒャーの反撃でタイとなり滑り出しはスムースにみえたが、得点経過は相互のパスミスからの速攻の応酬でランニングとパスワークに両国のトップチームの燃え上りを見せてくれた。しかし20分頃から双方に粗暴な防禦が多くなり、ドイツブンデスリガもこうであろうかと思わせるような故意的な反則が多く興を削ぐ内容となったのは残念であった。湧永は木野をゲームメーカーとした展開がまとまりをみせ、高橋のサイドからの奇襲的なシュート、木野のミドルなどで常に先行有利なゲームを進めたがFAGは長身を利しての ロングシュートに確実性を欠き、セットオフェンスからの強引な割込みや腕のリーチを利用した倒れ込みで加点し、名古屋京都でみせた得意の8字ローリングからポストやサイドにボールを散らすというテクニックは不徹底であったのは意外。シュートにつなぐべき動作を湧永の早目早目と潰しに出る防禦でタイミングをつかむことが出来ず次第にあせり気味となってしまった。

後半15分頃からFAG速攻をブッヒャー中心に走りW・アルントの突進、エムリッヒのエリア前からの倒れ込みなどで18―17まで追付いた時には会場は大いに湧いたがミューラーの退場とその後退場者席での行動により追放規則の適用となりゲームメーカーを欠く状態となり、ここで踏ん張った湧永は再び木野、高橋、森、戸田らのミドル・スカイシュートを良く決め押し切った。湧永の勝因はFAGの名前にめげず粗暴とみえるくらい果敢な攻防に終始したこととGKの弱点をよく攻めたことといえる。FAGの敗因は、長身者の射点の高いシュートが意外に確実性に乏しかったこととローリングがからまわりしすぎてシュートのタイミングが湧永に合わさせてしまったことだろう。バークハルトスマイヤー・コーチは、「知らず知らずのうちに日本的なハンドボールをしてしまっていた」と語っていたがマイペースに引込んでしまった湧永の殊勲ともいえ今後の指針を打樹てるのに良い経験となったことと思われる。又、ブッヒャーやアルントのプレーはその体格面からみて先分見習うべきものを多く持っていたことも書き加えておく。（日本協会常務理事、大阪協会審判部長）

「単独」の勝利42年9月以来

対ヨーロッパ・チーム

国内で行われたヨーロッパ一流チームとの対戦で、日本の単独チームが勝利を得たのは大同製鋼戦、湧永薬品戦が7、8度目。最近では42年9月11日の対西ドイツ選抜戦で全立教が勝って以来5年7ケ月ぶりのこと。

過去の6勝は次の通り。

全芝工大	22―17	ステラ・サンモール（フランス）
千代田印刷	21―12	ステラ
全同大	14―13	ステラ
大崎電気	21―16	ステラ
全芝工大	26―19	西ドイツ選抜
全立教	24―11	西ドイツ選抜

HONDAの
5文字は世界を走る!!

次から次と独創的な製品を発表し、つねに世界に話題を提供するホンダ「世界に類のないものを創ろう！」このホンダイズムから生まれる魅力ある製品は海外150ヵ国の人々に愛され「技術のホンダ」「世界のホンダ」として高い信頼を得ています。

本田技研工業㈱鈴鹿製作所

三重県鈴鹿市平田町1007　TEL 0593−78−1212㈹

裏付けた一線級の向上（レベルアップ）

ヨーロッパ屈指の強豪に日本の単独チームが2勝1敗。ミュンヘン後"ナショナルの底辺拡充"を目指した斯界は、幸先よいスタートを切ったといってよいだろう。（杉山　茂）

2勝1敗の数字をうのみにするのはもちろん危険である。ギョッピンゲンのコンディションが最悪に近く（＝後掲）、来日直前、マイスター監督と、オリンピック選手のGKウベ・ラトイエンが退団した精神的な不安もあったからだ。

しかし、日本のトップレベルがはっきりと充実のあとをみせ、特に体格ではるかに優る欧州勢を恐れなくなってきたのは大きな進歩である。

新旧8人の西ドイツナショナルのそれにオーストリアナショナルのパッツアーという布陣は、本場ヨーロッパでも屈指の強豪であり、ファンの評判も高い。

以前なら「当って砕けろ」式の挑みかただったが、大同にしても湧永にしてもはっきり「勝ち作戦」を打ち出していたし、「記録的な大敗になるのではないか」といっていた全京都産大・小西監督も第1戦のあと「なんとか食い下りたい」と言葉を代えている。

オリンピック出場が刺激

これらの日本勢の自信はやはりオリンピック出場が大きく作用していると思う。

ナショナルチームがここ数年「世界のベストエイト進出」をスローガンにかかげ、不運にして宿望成らずとはいえ、国内のプレイヤーを刺激させているのは事実だ。

また、46年以来相次いでヨーロッパチームが来日したことも見逃せない。いかに「国際経験」が必要かを物語るものであり、今後の日本協会の頂点強化対策に指針を示したものともいえる。

大同も、湧永もナショナルプレイヤーが中心となって、ヨーロッパチームに対する試合の展開をよく考えていた。目まぐるしいほどの速く短かいパス、上下にゆさぶるシュート、ふところにとびこむディフェンス……。

スピードを主体としたこうした傾向が国内のトップチームに流れ伝わり、選手が"自覚"すれば一線級の層の厚さはいちだんと増すだろう。

日本協会・荒川理事長は「相手が好条件ではなかったから…」といいながらも、今回の勝ちこしに大きな自信を得たようである。

新たな問題"招待時期"

FA・ギョッピンゲンがヨーロッパから来日したチームでは初めての負けこしで帰途についたことは、日本のレベルアップを喜ぶ反面いくつかの問題を投げかけた。（編集部）

日本側の善戦というべきなのか、ギョッピンゲンの醜態というべきなのかはともかく、ギョッピンゲンが「練習不足」であったことだけは間違いない。

3月10日の西ドイツ選手権決勝（グンメルスバッハに18－21で敗退）以来、試合はおろか、練習もほとんど行わず、個々の選手も適当にランニングしていただけ、という（エムリッヒ、ドン、フィッシャーの3選手は3月末、西ドイツB対フランスB戦に出場）。

これでは満を持していた日本勢の敵ではない。

来日直後「3勝の自信はある」といったバークハルトスマイヤー・コーチ（往年の名GK）だが、第1戦で完敗すると苦々しい表情でこの真相を打ちあけたものだ。

関係者やファンの間では「日本はなめられていたのか」あるいは「招待時期に問題があったのではないか」との声がもっぱらである。

前者については、試合後の記者会見でバークハルトスマイヤー・コーチは『とんでもない』と一言のもとに否定したが、グンメルスバッハ、キール、ダンケルセンらこ2年間に相次いで来日した各チームから『日本のことはよく聞いてきた』（ツエラー団長）ともいっており、単独相手の3戦は組し易しと考えていた、とみれぬこともない。その意味では、大同製鋼（愛知）らが容しやなく、この名門を振りまわしたことは今後の訪日チームへの"警鐘"になろう。

「予定外」の欧州杯敗退

「招待時期」については、窓口の日本協会を一方的に責められない。ギョッピンゲンは西ドイツ代表としてヨーロッパカップに出場しており、3月15～20日の準決勝までは進出絶対とみられ、あわよくば4月7日の決勝を狙っていた。

そうなればヨーロッパチャンピオンとなって3日後に日本へ乗りこんだグンメルスバッハ（46年4月、西ドイツ）と同様、その余韻を残した絶好のコンディションも望めたのである。

ところが、ギョッピンゲンは2月20日の準々決勝で敗れ、3月10日の西ドイツ選手権以降ギョッピンゲンにとっても、日本側にとっても予想にない"空白期間"ができてしまったのだ。

受け入れ準備がある以上、このような事態になったところで、急に日程を繰りあげることはできず『まさかこの期になって、練習を休むようなら呼びませんとはいえない』（杉山企画担当常務理事）。

難しい時期の移し変え

こうした危険（?）を取り除くためには、ヨーロッパチームの招待時期を改めて検討しなければならないのだが、10月から3月までという本場のきっちりとしたシーズンを考えると直後の4月か直前の9月以外は難しい。

39年のステラ・サンモール（フランス）や、35年のルーマニアナショナル（11人制）は6月だったがシーズンオフということで最近はあまり相手側が好まない。

少々の難点はあっても、3～4月、9～10月以外に移し変えるのはムリといってよい。

いつ呼ぶのが日本にとって強化になり刺激になるのか——当分のあいだ日本協会のこれは議論の的になるだろう。

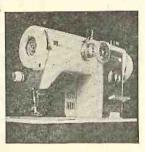
日本協会 専門委員会の人選進む

日本協会は、新年度の専門委員会の編成を急いでいたが、各ブロック、各加盟団体からの推せんがほぼ出揃い、技術審判、普及指導の競技3部の本部推せん者（中央委員）もリストアップを終え、大勢が明きらかとなった。

今期の特色は本部推せん者を6名以内にしぼったことと、新設の中学部本部委員を担当常務理事（部長）が栗脇嶷氏（東海）となったため東海地区を中心とすることにした2点だろう。

また、これまで審判部内で人選していた審判審査委員会が前号詳報のとおり、非常設ながら会長・理事長の直轄機関となったのは前進である。

このほか、機構の簡素化と幅広い人材の吸収を目的に総務企画部が事務系各部を包含して大世帯となったのが注目される。現時点では担当の5常務理事（杉山、嶋田、光島、大野、滝口）がかなりオーバーラップしているが、今後も委員の増強を心がけ運営のスペシャリスト化に進む予定だ。

同部内に設けられた加盟団体理事長会議はまったくの〝新組織〟日本協会とタテ割り各団体の話し合いの場といえる。

昭和48・49年度日本協会専門委員会名簿

▼技術部（担当・勝繁大常務理事）

吉沢　正登（北海道）	北村　尚英（東北）
岡村　昭二（関東）	加藤　雅之（北信越）
鈴木　城（東海）	小西　博喜（近畿）
片岡　賢二（中国）	石原　達夫（四国）
今村　孝一（九州）	藤原　侑（学連）
近藤　信行（実連）	望月伸三郎（高体連）
北川　勇喜（教職員連）	中川　紘逸（自衛隊連）

竹野奉昭，小林二郎，荻原一次，坂理泰幸，
近藤金博（以上本部推せん

▼審判部（担当・安藤純光常務理事）

吉沢　正登（北海道）	由利　弘（東北）
清水　正（関東）	金原　至（北信越）
鈴木　四郎（東海）	岡本　克彰（近畿）
柳井　文治（中国）	河本　武夫（四国）
日野　博（九州）	宇津野年一（学連）
近藤　金博（実連）	嶋田新太郎（高体連）
藤田　八郎（教職員連）	福井　正躬（自衛隊連）

▽ルール研究委員会　岡前義春，佐野和夫，大塚文雄
綿貫敏雄，上久保重次，迫利通

▼普及指導部（担当・渡辺慶寿常務理事）

八重樫英治（北海道）	関川　正道（東北）
遠藤　健次（関東）	村井　輝郎（北信越）
岡田　重博（東海）	狩野　幸介（近畿）
船江　昭光（中国）	川崎　秀雄（四国）
板橋　安磨（九州）	滝口　三郎（学連）
福本　弘（実連）	三浦　公（高体連）
斉藤　和夫（教職員連）	森永　吉彦（自衛隊連）

大西武三，宮本西嗣，山田哲雄，一宮昌平
高田昭美（以上本部推せん）
※他に中学関係者から1名を人選中

▼中学部（担当・栗脇嶷常務理事）

未　定（北海道）	高野　尚之（東北）
入江　暢一（関東）	阿部　健（北信越）
西川　勤也（東海）	遠藤　信三（近畿）
滝川　侃志（中国）	楠原　敏明（四国）
宍戸　幸一（九州）	

（注）本部推せんは東海地区を中心に人選中

▼総務企画部（担当・杉山茂常務理事）

総務委員会　嶋田新太郎常務理事，西川明夫理事，杉山

企画委員会　滝口三郎，光嶋磯雄，大野金一，杉山，嶋田各常務理事，早坂勢三理事，福地賢介，塩川安賢

国際渉外委員会　光嶋，大野，久田暁理事，一宮昌平

広報委員会　杉山，滝口，西村亮治

加盟団体理事長会議　中沢重夫（学連），清水正(高体連)，片瀬喜代次（教職員連），泉　正明（実連），富永　劭（自衛隊連）～以上日本協会理事～杉山，嶋田，光嶋．滝口，大野

▼財務部（担当・神田清常務理事）

嶋田新太郎，中川種弥両常務理事(中川氏は会計担当)

▼編集部　人選中

（注）審判審査委員会（非常設）は既報。強化委員会は人選中

浅野均一氏らに委嘱
日本協会顧問・参与

日本協会は2月11日の定期全国評議員会（東京）で顧問、参与につき協議、引きつづき顧問に浅野均一氏ら7氏、参与に阿部二郎氏ら9氏を委嘱することとした。

【顧問】浅野均一、川崎秀二、河島武四郎、栗本義彦、内藤誉三郎、鈴木達雄、米本卯吉

【参与】阿部二郎、浜田義明、池上金治、岩野次郎、松本良三、森松雄、外山准二、常松喬、植村肇

（敬称略・ABC順）

全日本学連の新役員

本誌既報のとおり全日本学生連盟は2月東京で代表者会議（理事会）を開き新年度役員(任期1年)を決めこのほどその名簿を発表した。

▽会長　西敏郎（関東学連会長、慶大出）▽理事長　中沢重夫（関東・芝工大出）▽審判部長　宇津野年一（東海）▽技術部長　藤原侑（関東）▽普及部長　滝口三郎（関東）▽理事　斉藤節郎（東北北海道）、安藤純光、田中秀夫、福地賢介（以上関東）、若山博(北信越)、藤松博（東海）、久保義雄、堀和義（以上関西）、藤田信義(中四国)、山崎剛（九州）

的場益雄氏が副会長に

全日本教職員連盟はこのほど新しい役員名簿を次のように発表した。なお、事務局（連絡先）は埼玉県浦和市西堀一二七〇・浦和工業高校内・金子永治氏気付となった。

▽会長　山田計▽副会長　的場益雄▽理事長　片瀬喜代次▽事務局長　遠藤健次▽審判部長　藤田八郎▽技術部長　北川勇喜▽普及部長　斉藤和夫▽競技部長　柳井文治▽研究部長　渡辺慶寿▽庶務会計担当　金子永治▽理事　石切山稔治（北海道）、由利弘（東北）、河田英彦（関東）、油井孝一郎(北信越)、中根武彦（東海）、東嘉仲（近畿）、丸口哲美（中国）、山地利雄（四国）、日野博（九州）～以上ブロック選出～藤田信義、清水正、西川勤也、高橋健夫、渋谷行康～以上会長推せん～

体協評議員に徳永副会長

日本協会は、荒川理事長の日体協理事選出にともない、補充の必要が生じた体協評議員に徳永陸繁副会長を決めた。全国評議員会には事後承認をもとめることになる。

全日本候補、東京重機に苦しむ
世界女子選手権強化試合

世界選手権に備えての女子強化試合・全日本候補対東京重機工業（東京・47年度全日本総合1位）の試合は4月14日午後2時10分から毎日放送のテレビマッチとして大阪市立中央体育館に約一千の観衆を集めて行われた。審判＝北岡大覚、藤井證。

全日本女子候補 11（6－4, 5－3）7 東京重機工業

【重　機】

	選手	所属	得
GK	上杉		0
FP	牧野	（全日本候補）	1
	古佐原	（全日本候補）	0
	菊地		1
	折口		1
	市川	（全日本候補）	3
	生井		1
	村上		0
	鈴木		0
	7MT	(1)	7

【全日本女子候補】

	選手	所属	得
GK	小原	（大洋デパート）	0
FP	垂水	（大洋デパート）	5
	米	（大洋デパート）	0
	三毛	（田村紡績）	0
	島田	（大洋デパート）	3
	鳥居	（ブラザー工業）	0
	蔵田	（大洋デパート）	1
	佐藤	（大崎電気）	2
	谷沢	（日本ビクター）	0
	岩井	（大崎電気）	0
	嶋田	（日体大OG）	0
	木村	（日体大OG）	0
		(1)	11

▽全日本女子候補、その他の登録選手　GK和田（大崎電気）、大工原（日体大OG）。FP池田（日本ビクター）は負傷欠場。

○……流会した世界選手権アジア予選（日本1韓国、本誌既報）の代替試合。有料の全日本女子強化試合は初めての試みだった。

全日本候補は韓国戦に備えて垂水（大洋デパート）、牧野、古佐原（ともに東京重機）のトリオを柱にして攻防両面の作戦を組み立て、練習を重ねて来た。このうち牧野、古佐原が相手側へ廻ったのだからチーム力はかなり割り引かれた。

○……はたして、張り切る重機に対して全日本候補は歯切れの悪い試合ぶりで、主導権を握ったのは後半なかばをすぎてから、という苦戦だった。

特に前半8分30秒1－2から2－2としたあと10分近く無得点、ルーズボールのとりあいもほとんど重機の出足のよさに押しこまれ、戦局を苦しいものにした。

○……全日本候補を救ったのはGK小原（大洋デパート）のパスアウトの巧さだ。

8分30秒島田（大洋デパート）へ渡して同点、23分には垂水に通し、垂水が絶妙の身体のこなしから左腕で決め4－3とした。どちらもパスコース・タイミングとも申し分のない小原のプレーによって生まれたもの。

○……後半、全日本候補はしばしばスカイプレーを試みた。また完全に消化はされていないが身につけば外国チームはほとんどみせぬ技だけに有効な武器となろう。

（編集部注・この試合をテレビで見た読者から「スローモーション・ビデオで再生された全日本候補のスカイプレーはほとんど足が着地したあとでボールを射っていた」という投書が4通ほど寄せられた。滞空力の養成は研究課題の一つであろう）。

○……強化目標のディフェンスはこの試合では一応無難のデキといえたが、要は欧州勢の長身にどう対抗するかだ。当りの強さ、速さが不可欠である。

個々の選手では鳥居（ブラザー工業）、佐藤（大崎電気）のシャープな動きが目についた。二人とも体格もよく積極性があるだけにこのまま伸びれば攻撃陣に厚味ができる。

○……東京重機はスピードがいちだんとつき、波にのっているチームという印象を強めた。

折口、菊地、村上、生井らも自信をつけているので今シーズンは女王の座を確固たるものにするのではなかろうか。　（K）

〃〃〃〃〃〃〃〃〃〃〃〃〃〃〃〃

成功した「作戦タイム」の実験

○……この試合はテレビマッチ、強化試合という〝特別企画〟のため大阪協会の発案によるチャージド・タイムアウトが採用された。

前・後半に各チームが1回づつ90秒の作戦タイムをとり、選手をベンチ前へ集められるというもので昨夏の国際ハンドボール連盟（IHF）総会にポーランドが提案、却下はされたが注目を集めた。

○……日本ではもちろん初めての試みで、「ルールにもなく、しかも採用の見とおしがうすくなったものをわざわざ行うのはどうか」という意見もあったが終ってみるとこの実験、意外に好評のようである。

話を聞いた時は心配顔の井監督も「面白い〝規則〟です。今までは作戦タイムの無いのがハンドボールの特色でしたが、これによって相手のリズムを崩すこともできるし新しいパターンのハンドボールが生めるかもしれません」と気にいった様子。近藤監督も「公式戦での採用はともかく、練習を目的とした試合は指導効果がすぐでるという点で歓迎ですね」という。

▽前半11分・重　　機（2－2）
▽　同　18分・全日本候補（3－2）
▽後半10分・全日本候補（8－5）
▽　同　19分・重　　機（5－10）
（　）内はその時点のスコア

全京都にも勝つ

全日本女子候補は4月12日午後7時から京都市体育館で全京都と対戦、大勝した。

全日本女子候補 25（12－2, 13－0）2 全京都

審判員更新料の改善を検討　日本協会

日本協会は財政難の突破口として公認審判員の更新料制度を全面的にねりなおし、一般事業のうち審判部経費に充当させる程度の額を更新料により積みあげたい意向で、早ければ49年度からの実施を検討することに決めた。

これは4月7日の月例常務理事会で神田清財務部長の提案がきっかけとなったもので、現行の「公認審判員規定」ではA級、B級公認審判員のみ、毎奇数年に三百円の更新料を添える、と決められているが、これをA～D級すべての公認審判員に毎年適用させ、その額も五百～千円にアップし、その代り、これによって得た収入はすべて審判部事業に廻そうという考えかたである。

日本協会一般事業予算のうち審判部経費は46年度が70万円、47年度が約77万。いつも要求額はその倍近くだがカットにあい、48年度も要求額約百七十万円に対し査定は約百十五万円におさえこまれた（注・数字はいずれもルールブック作成費を除く）。審判部側はこれでは新規事業、それも国際事業がつねに後廻しになり、審判技術の向上が企れないという不満を示していたが、収入が頭打ちとなっている日本協会の現状では増額はとてもムリ。

財務部案が実施されれば百～百五十万程度の収入が見込まれ、審判部事業をカバーできる。

今後は財務部、審判部両面で検討を進めていくが、審判部のでかたがカギである。

もし、審判部事業費の大半を公認審判員からの徴収でまかなうことになれば、日本協会財政の〝将来パターン〟といわれる各部独立採算システムのモデルケースにもなるわけで、この点からも成りゆきが注目される。

なお、ルールブック収入（売りあげ）は、機関誌収入とともに、その支出（主に印刷、発送費）を上廻っているが、今後も両費目は一般会計に繰り入れられる。

審判員中央研修会を実施　5月26、27日東京で

日本協会審判部は今年度の公認審判員中央研修会を5月26、27日東京・日本青少年総合センターで開くと発表した。

競技規則改正点の説明と審判技術のレベルアップを目的としたもので、47都道府県協会審判部の代表（各1名）が参加する。日程次のとおり。

▽第1日（5月26日）10時開会、研修I「競技における審判員のありかた」、同II「競技規則の改正点について」、同III「改正点の実際について」

▽第2日（27日）9時研修IV「審判実技」、同V「質疑応答」、16時閉会

嶋田氏を審判審査委に追加

日本協会は4月7日の月例常務理事会で新システムの審判審査委員会（本誌既報）に前・国際審判員嶋田新太郎氏（富山）の追加を決めた。なお、同委の委員長は当初荒川理事長が就任の予定だったが、委員の互選で選出することに変更した。

審判員指名空し　世界女子選手権アジア地域予選（日本ー韓国）は本誌既報のとおり、韓国の棄権により流会となったが、その3日後、国際ハンドボール連盟（IHF）から予選担当の審判員配分リストが送られて来た。

アジア地域予選は第1戦が日本の安藤純光、佐藤和夫の両氏、第2戦が韓国協会推せんの国際審判員。日本の審判員がIHFから公式審判員に指名された初の文書だったが惜しくも〝実技〟はまたの機会にもちこされた。

千七百万円の予算案を作成

日本協会は4月7日の月例常務理事会で、役員改選のため遅れていた「昭和48年度一般会計予算」を作成した。

それによると収入見こみ千七百八十万円に対し支出予算総額は一七、七五八、四〇〇円となり、収支見合う額が決定された。近く全国評議員に文書で承認を求める。

昨年末、各部から要求された予算総額は男女世界選手権派遣費を含め二千五百万円に及び、旧執行部による第一次査定額（2月11日）二〇、一七九、四〇〇円を経て今回の編成にこぎつけたもの。

収入が横バイとなり、しかも今年度は一般の登録制度を大改訂したため登録金収入の予測がむずかしく男女頂点強化をはじめ各部の事業は大幅にカットされている。

なお、世界選手権派遣に関する予算は日本体協からの補助額が決まりしだい検討される。

48年度日本協会一般会計（支出）予算（案）

項目	金額
▼総務企画部	
事務局経費	4,479,000円
加盟費	250,000
会議費	760,000
事業費	2,250,000
国際渉外費	80,000
国内渉外・広報費	250,000
▼財務部	
公認会計士委嘱費	188,000
事務費	40,000
▼技術指導部	
全日本強化費	1,000,000
全日本女子強化費	1,000,000
ジュニア強化費	390,000
▼審判部	
競技規則作成費	360,000
IHF会議派遣補助費	400,000
会議費	234,400
審査関係経費	140,000
研修会関係経費	376,000
▼普及部	
調査研究費	300,000
普及委員会議費	100,000
テキスト改訂版準備費	30,000
教育系大学大会準備費	50,000
▼中学部	
第2回全国中学大会開催費	500,000
予備費	50,000
▼強化委員会	
強化委員会費	230,000
▼編集部	
印刷・編集・発送費	4,101,000
予備費	200,000
総計	17,758,400円

沖縄に高校女子集う

～本土復帰特別国体近づく～

全国のスポーツマンが沖縄県の本土復帰を祝う友好の沖縄特別国体は5月3日から6日まで21競技が10市1町でくりひろげられ、ハンドボール競技は高校女子8県によるトーナメントが新設のコザ市営体育館で行われる。(編集部)

出場は沖縄ふくめ8県

大会はあくまで友好が目的。規模も通常の国体とは異なり、地元と日本体協などの協議によって決められた種別が4～11都道府県の代表を集めて行われる〝ミニ・サイズ〟だ。

ハンドボールは別表の組み合せで今シーズン初の〝全国大会〟として熱戦譜をつづるが各代表とも「参加するからには好成績を」と意欲充分なだけになかなか見応えのある内容となりそうである。

「強い」と前評判なのは大分(大分県)と熊本(熊本女商)の九州勢。大分県は3月末の九州高校で優勝を遂げており自信をつけている。熊本女商は昨秋の鹿児島国体優勝の主力・根岸、畑田、GK丸山が健在。

残りの6チームは正に実力伯仲だ。福島(全福島)は1月の東北総合室内でベスト4に勝ち残るなどまとまりがあり、長野(小諸商)は体格に恵れている。神奈川(全神奈川)、奈良(奈良選抜)もインター・ハイ、国体出場経験者を中心にピックアップチームとは思えぬ組織力を誇る。

張り切る沖縄、異色の鳥取

異色は鳥取(鳥取選抜)。インター・ハイ23年の歴史で鳥取から代表校が送られた例はなく、高校界の宿願―男女全都道府県参加は「鳥取待ち」だった。昨年あたりから活動がみられ、幸運な沖縄行きの割り当てを受けた。

厳密には40、41年ごろ境、倉吉産業にクラブができ僅かの期間だが試合などしており〝復活〟というべきだろうが、いずれにせよ鳥取の女子チームが全国的な大会へ姿をみせるのは初めてであり注目したい。今回は3校からの選抜。

ダークホース視されているのは地元沖縄(沖縄選抜)。昨年4月から各高校の優秀選手を集め長期的、組織的な練習を積んで来た。待ちに待ったこの日である。今年に入ってからも九州遠征を再度行ないみがきをかけており大分や熊本にも互角といわれる。地元の声援をうけて勢いにのれば大きな収獲をあげることも夢ではない。

○……組み合せ……○

- 神奈川(全神奈川)
- 長　野(小諸商)
- 福　島(全福島)
- 熊　本(熊本女商)
- 奈　良(奈良選抜)
- 大　分(大分東高)
- 鳥　取(鳥取選抜)
- 沖　縄(沖縄選抜)

全国から男女各10校出場

第2回全国中学生大会(8月16～18日)

日本協会中学部と愛知協会は今月8月16日から18日まで愛知県愛知郡長久手町の愛知県青少年公園球技場で行われる第2回全国中学生大会の実施計画(要項)について検討を進めていたが、このほど大綱を次のように決めた。正式な大会要項の発表は5月なかばになる。

(第2回全国中学生大会 実施計画)

一、目的　ハンドボール競技を通じて心身ともに健全な少年の育成と交友を深め、希望のある生活体験を与えるとともに技術の向上をはかる

一、参加チーム　全国9ブロック(北海道、東北、関東、北信越、東海、近畿、中国、四国、九州)および愛知協会(開催地)が推せんする男女各1チーム＝計20＝

　不参加ブロックがあった時は東海ブロックで補充する

一、チーム構成　付添(監督)1、選手12＝計13名

一、競技規則　昭和48年度日本協会競技規則とし試合時間は前・後半各20分、ハーフタイム5分。

一、試合方法　トーナメント

一、宿泊所　愛知県青少年公園宿泊所

一、経費　宿泊費は全額日本協会負担、交通費は参加チーム側負担

一、参加申しこみ期日、8月1日

一、日程▽8月16日正午集合14時開会式、15時競技　▽17、18日9時競技　▽18日正午閉会式(17日15時から体力測定)

4強中心に激戦か

24日から全日本自衛隊選手権

今シーズンの全日本選手権のトップを切る第5回全日本自衛隊選手権は5月24、25、26日の3日間、東京・駒沢体育館（24日は駒沢第2球技場）に全国から32チームが参加して行われる。オープンの女子（日本協会長杯争奪）は関東地区の6チームが出場する。
自衛隊球界への評価はシーズンごとに高まっている。

富永全日本自衛隊連盟理事長は「まだまだ普及の段階」というが、質量ともに堅実な歩みをとげている、といってよいだろう。

5年目のことしはこれまで最高の32チーム（男子）がエントリーしたが、実力差がいぜん残っているとの判断から、ビッグフォアともいうべき、前年優勝の第1航空群（海上鹿屋）、過去3回優勝の陸上勝田、呼び声の高い海上佐世保地方隊、国体出場をめざす海上第3術科学校を決勝トーナメントにいきなりシード、その他の28チームは4ブロックに分けて予選トーナメントを行う方法が採られている。

前評判では、ことしもこの4強をしのいで最上位にとび出すことは各チームにとってなかなか難しいようで、なんとか決勝トーナメントへというのが「合言葉」。それだけに予選トーナメントの星のつぶしあいは、みものとなるだろう。

ふだん、一般チームとの交流が思うようにはいかず、戦力展望する資料に乏しいが、優勝争いは順当ならシード4チームに落ち着きそうである。

個々の選手の技倆にも注目が集まる。全日本ジュニアに中水流（第1航空群）が選ばれるなど、充分に全国のトップレベルで活躍できる選手が昨年、一昨年あたりから目立つようになった。

中水流につづく好選手が一人でもよけいにこの大会で見出せれば と日本協会関係者の期待も大きい。

3回目を迎える女子は、いずれもこの大会への出場をめざして張り切っていると伝えられ興味深い。できることなら、この大会だけというワクをとびこえて、今シーズンあたり、他の地方大会などにも姿を見せて欲しいものである。（S）

春の学生リーグ戦が開幕

春の学生リーグ戦が熱戦の幕をあけた――口火を切った東海学生（4月21日～5月5日・名古屋）は予想どおり中京、名城両校が順調にすべり出し、女子は4校の実力が接近、好試合がつづいている。

新たに東邦、北里両大学を加え5部42校となった関東学生（4月28日～5月20日・駒沢）は、今シーズンから各部上位2校と下位2校による入れ替え戦制が採用されるとあって、序盤からはげしいせりあいが演じられ、第2日東京学芸大が日体大を16－12で破る大波乱が生じている。女子は24連覇をめざす日体が今シーズンも中心である。一方、関西は1日4部の試合で開幕、注目の1部は3日から始まった。

（各地学生界の詳報は次号に特集します）

決勝トーナメント

- 海・第1航空群（鹿児島）
- Aブロック勝者
- 海・第3術科学校（千葉）
- Bブロック勝者
- 海・佐世保地方隊（長崎）
- Cブロック勝者
- Dブロック勝者
- 陸・勝田（茨城）

予選トーナメント

【Aブロック】
- 陸・少年工科学校（神奈川）
- 陸・新町（群馬）
- 陸・釧路（北海道）
- 陸・立川（東京）
- 陸・神町（山形）
- 陸・第32普通科連隊（東京）
- 陸・霞ケ浦（茨城）

【Bブロック】
- 陸・春日井（愛知）
- 陸・朝霞（東京）
- 陸・相馬原（群馬）
- 陸・施設教導大隊（茨城）
- 陸・第1通信大隊（東京）
- 陸・滝ケ原（静岡）
- 陸・下志津（千葉）

【Cブロック】
- 陸・富士（静岡）
- 陸・高田（新潟）
- 陸・需品教導隊（千葉）
- 陸・古河（茨城）
- 陸・久里浜（神奈川）
- 陸・宇都宮12特（栃木）
- 陸・第1武器隊（東京）

【Dブロック】
- 海・第4航空群（千葉）
- 海・第2航空群（青森）
- 混・体校2教学生（東京）
- 海・第21航空群（千葉）
- 混・診療放射線技師養成所（東京）
- 混・体校1教学生（東京）
- 海・大湊航空隊（青森）

陸は陸上，海は海上，混は混成。

女子トーナメント

- 高等看護学院（東京）
- 相馬原WAC（群馬）
- 三宿（東京）
- 婦人教育隊（東京）
- 中央病院（東京）
- 朝霞WAC（東京）

登録準備はおすみになりましたか

日本協会への登録準備はおすみになりましたか——。

昭和48年度登録は別表のとおりの登録料で5月31日に締切られる。

今年度から、ハンドボール競技人口確保と、市民スポーツへの進出を意図して一般を3ランクに分ける新形式が採られている。日本協会は、国内でハンドボール活動を行う総ての登録を要望しており月1回、年間数回しか集まれぬようなチームのために「一般C」を設けた。

日本協会への登録は、これまでと大要はかわらず、各都道府県協会から登録用紙（所定様式）を受けとり必要事項を記入のうえ各都道府県協会を通じて日本協会へ一括送られる。チームが直接、日本協会へ届出ることはできない。

なお、全日本実業団選手権、全日本教職員選手権、全国実業団トーナメントには「一般A」に登録したチームのみ出場資格がある。また、全日本総合選手権の基本的な出場資格は「一般A」「学生」「高校」へ登録されたチームに限られる。

年度内のランク変更は認められない。「一般C」は5月31日以降の登録もうけつける。

昭和48年度日本協会登録料（円）

種別		登録料	個人登録料	機関誌購読料
一般	A	4,000	1人　200	1,800
	B	3,000	1人　200	1,800
	C	300	……	義務づけず
学生		3,000	1人　100	1,800
高校		1,500	……	1,800（別途請求）

※他に各種別とも1チーム500円の「モントリオール基金」を納入

新しい流れへの提案 ⑥

設けよ ナショナル・レフェリー制度

駒沢送球斎（東京）

現在、日本ハンドボール協会の審判員のランキングはA、B、C、Dの四つのクラスに分かれ、それなりに厳しい審査を受けているが、全日本選手権などを見ていると、厳格なライセンス制度の割にあまり判定技術が巧くない人がいると思うのは私だけであろうか。

去年くれの全日本総合選手権でも明らかにミスジャッジ（ルール解釈といった初歩的なコトではなく試合運行上のテクニックも含めて！）と思われる判定や、審判員のほうがプレイヤーよりも感情的になっているのではないか、とみられるケースが散見され、スタンドから口笛がとんだりしていたものだ。

ヨーロッパで育ったスポーツは「レフェリー絶対」であり、そこにスポーツのよさも見出せるのだが、稚拙なレフェリングはハンドボールそのものの醍醐味をまったくそこなわしてしまう。「絶対」という神格化をうけるなら、レフェリーそのものに私は「完ぺき」を希望したいのである。

私は、A級という最上級ライセンスを受けている人のなかでも技術の優劣がはっきりあると思う。

そこで少なくとも全日本総合選手権（オール・ジャパン・チャンピオンシップ）のレフェリーだけでも「特A級」の人でのみ運行して欲しいと思う。

つまり、選手の最高の栄誉がナショナル・プレイヤーならば、ナショナル・レフェリーともいうべき制度だ。

日本には今、何人の国際審判員が居るかは判らないが、その人たちは当然ナショナル・レフェリーの有資格者だろう。この人たちだけで全日本総合選手権がまかないきれないようなら、試合数に見合うだけのペアをナショナル・レフェリーとすればよい。

当然のことながらこれらの人のジャッジングは完ぺきでなくてはならず、レフェリング・マナーも秀れていなければならない。

そのために、ナショナル・レフェリーの監察委員会を編成して、大会中のレフェリングを細大もらさず採点（チェック）、大会後なり、次年度の大会前にそれを参考にして、次の大会の担当（ナショナル）レフェリーを決める資料にするのだ。

ナショナル・プレイヤーに対する目は、冷酷なほど厳しい。オリンピック代表の時など、最終時点で数人が栄光のユニフォームを着れぬ不運にあっている。

ところが、レフェリーは、聞けば〝降級〟はないのである（〝はく奪〟はあるそうだが——）

レフェリーは、自らに厳しい人でないかぎり、自分のレフェリングを磨く努力を怠ることになりはしないか。

監察委員会の審査は極秘裡に処理され、場合によっては出場チームの監督の無記名投票（○×記載）を参考データにすることなどいかがだろう。

レフェリーは裁くばかりではなく、当然裁かれることもあるべきなのだ。

それによって審判技術はもとより、プレイヤーのレベルアップにつながることは論を待たない。

もちろん、ナショナル・レフェリーは、それだけの褒賞が与えられてしかるべきだろう。

例えば5年以上、この任を得たならば、ブレザーコートが贈られるとか、世界選手権見学へ日本協会が派遣してもよいと思う。

日本ハンドボール界はアマチュアであるがために、ともすれば義理人情がからみ、年功序列がモノをいう傾向がありはしないか。

それはそれなりに大事な時もあるだろうが、厳正を要する時は、いくら趣味人の集う任意団体であろうともドライな感覚で、最良、最善の道を選択すべきである。余談だがそれが私は、新しいアマチュアスポーツ界の（特に日本の）パターンになるべきであると思う。

ハンドボール技術のスピード化高度化は驚異的ですらある。

審判技術も、当然それに追いつくだけの努力と研究がなければいけないわけだが、それにはやはりライセンス制度をどう活用するかがポイントだ。

日本のハンドボール審判界には「あの大会の審判をつとめたい」「全日本の決勝審判が目標」というムードがあるだろうか。

あるならばそれでよいが、ないようなら是非そうした目標とはげみをつくり「あのペアがナショナルレフェリーに選ばないのはおかしい」とか「君たちも早くナショナルレフェリーになれヨ」といった世論がおこるようにして欲しいものである。

機関誌などによると、世界選手権やオリンピックで日本人レフェリーが登用されることに懸命なようだが、たいへん結構な話だと思う。

それと同じような努力目標として全日本総合選手権を運営するナショナル・レフェリーへの推せんを目指して、全国のレフェリー諸氏が奮起されることを期待したい。

お知らせ

106号（3月号）から連載した「新しい流れへの提案」は次号で完結します。最終分の締切日は5月20日です。ふるって御寄稿下さい。

（編集部）

〔筆者より〕 私のこの提案はナショナル・レフェリー制度が布かれていないだろう、という推測にたっています。

もし、全日本総合選手権のレフェリーが、すでにA級のなかでも特に秀れた技能とキャリアをもった人たちで編成されているようならば、是非、ナショナルレフェリーという呼称を一般化するように提言いたします。

私は、レフェリー技術の巧拙をろんねんすることよりも、むしろレフェリーに励みと目標を置くようなシステムを、というのが本旨なのです。

国内に於けるレフェリー資格が厳しければ厳しいほど、斯界の宿願である「オリンピック・レフェリー」の誕生が早まると思います。

（駒沢送球斎さん。詳しい住所を編集部までお知らせ下さい。）

新しい流れへの提案⑦

日本ハンドボール界のそのシーズンのナンバーワンを決める全日本総合選手権が一昨年あたりからその出場チームに制限を加え、いわゆる一般チームが締め出される形になったことは、斯界の将来のために果してプラスだろうか。

つい先日の新聞報道によれば日本蹴球協会は今年からあらゆる国内チームに全日本選手権への道を開き、そのエントリーは八百チームをこしたという。

サッカーのこのやりかたは日本リーグ加盟チームなどをシードする点などに新味はあるが、全国のチームを予選という形を採りながら一本に集める例はこれまでになかったわけではなく、ハンドボール界も三年前までは似たようなシステムであったハズだ。

それが、どういう理由によるものか実連、学連といった系列を重視しはじめたのは、一方で底辺拡充をうたい、地方球界の発展を期待する考えに逆行するのではないだろうか。

私自身も、ついこの間まで、日本協会と実連、学連、高体連、教職員連、自衛隊連盟との関係をよく理解していなかったが、よく聞けば、これらの連盟は日本協会の単なる「加盟団体」であって、日本協会の細胞組織は47都道府県協会であると、憲法ともいうべき日本協会規約にもうたってあるというではないか。

私は将来は、日本協会と加盟団体とは規約の上では〃絶縁〃すべきであると思う。

こうした考えを推し進めていかなければ、日本のハンドボールは国民のスポーツになり得ない。全国連盟などという縄を張ってはいけないのだ。

全日本総合は「組織代表」重視を

となれば、全日本総会への出場優先権は当然、加盟団体よりも組織にあるべきであり、現行の制度は規約違反とまではいわないが、あまりよい考えではない、といってもよさそうだ。

全日本総合選手権が、連盟重点主義を打ち出しているのは、縄張り意識の助長になるばかりではなかろうか。

私は一シーズンでも早く全日本総合選手権の全面的地域代表システムを採るよう提案したい。

当分の間は地域差が生じるだろう。地域（ブロック）別の代表チーム数の分配のサジかげんで、強者が泣くケースも生まれるかもしれない。

しかし、現行の方法にしてもこうした〃被害〃をうけているチームはあるのだ。

日本協会規約が、地方協会を組織であると明記しているのは当然のことながら賢明である。となれば、全日本チャンピオンはそうした組織の代表者によって競い合わされるべきであり、将来の大計にもつながると思う。

私は、冒頭で、現行の全日本総合選手権は一般チームが締め出されると書いたが、おそらくこの提案が実現したところで、一般チームは企業チーム、学生チームの後塵を拝して、桧舞台へ登場することはムリであろう。しかし、今のように、全日本総合を目指そうにも目指せない事態よりも「全日本総合××予選」に出られるだけでもチーム存続の意義をみつけだせるのではないか。

また、これによって地域意識が生まれ、地方選手権の権威化も果たされはしないか。

もっとも、私にしてみれば、この提案はあくまで全日本総合選手権が続開される前提にたっての発言であり、理想は機関誌106号で杉山茂氏が提言したトップエイトの「日本リーグの発足」であり、それにつながる「地方リーグの確立」であることをおことわりしておきたい。

上原 功（東京都・32歳）

☆★☆★☆★☆

海外トピックス

杉山　茂
（NHK運動部）

男女ともソビエト代表に栄冠
～ヨーロッパ杯～

ヨーロッパ24ケ国の代表チーム（単独）によって昨秋から激戦をつづけていた第13回ヨーロッパカップは4月7日西ドイツのドルトムントでMAI・モスクワソビエト）×パルチザン・ブジエロバル（ユーゴ）の決勝戦を行い、モスクワが後半なかばすぎから一気に逆転、初優勝した。ブジエロバルの2連勝は成らなかった。

一方、第12回女子ヨーロッパカップも4月1日チエコのブラスチラバでスパルタク・キエフ（ソビエト）とテイミソアラ大学（ルーマニア）の決勝戦を行い、キエフが圧倒的な強味を示し4年連続優勝（ソビエト代表は6回連続・通算7回目）を飾った。男女同国のタイトル獲得は一九六六年の東ドイツ（男＝DHfK・ライプチヒ女＝SC・ライプチヒ）以来のことである。

▽男子決勝

MAI・モスクワ 26（13－9、13－14）23 パルチザン・ブジエロバル

得	【モスクワ】		【ブジエロバル】	得
0	シスチヨフ	GK	ニムス	0
		GK	ブラディック	0
8	○マキシモフ	FP	○ビドビッチ	14
4	○パノフ	FP	○プリバニッチ	4
3	○リイン	FP	プロダニッチ	2
3	ジエフィモン	FP	デュラネッチ	2
3	○オガネソフ	FP	マルチノビッチ	1
5	マショリン	FP	ヤンドロコビッチ	0
0	○クリモフ	FP		
0	○ウサテイフ	FP		
0	○クレフ	FP		
26	（2）	7MT	（4）	23

（○印はミユンヘン・オリンピック出場選手）

前半ブジエロバルがわずかに押し気味だったが後半1分14－14の同点となってからはまったく形勢は互角。しかし後半10分あたりからマキシモフを中心としたモスクワの攻撃が調子にのりはじめ、じわじわと点差を開き26分25－21とリードを奪った。

ブジエロバルはこのあとモスクワの2選手がラフプレーで同時退場を命ぜられたスキをついて連続ゴールしたが及ばず敗れた。

▽女子決勝

スパルタキエフ 17（7－4、10－4）8 テイミソアラ大学

＝詳細未着＝

〔お詫び〕　前号でテイミソアラ大学は準々決勝でコペンハーゲンに敗れたようにお伝えしましたが11－8、13－10で連勝の誤りでした

北欧3国、三すくみ

北欧3国の対抗戦は、このほどコペンハーゲンなどで行われ、1勝1敗の三すくみに終った。

スウェーデン 18（9－9、9－8）17 ノルウェー

ノルウェー 16（9－7、7－7）14 デンマーク

デンマーク 16（8－5、8－8）13 スウェーデン

ユーゴ、西独らおさえる
～国際トーナメント～

ユーゴ国際トーナメントが3月23日からリユブリアナで行われ、ミユンヘン後はじめてユーゴが国際大会に登場、チェコに接戦した以外は貫録じゅうぶんな攻守で全勝、首位となった。

西ドイツ 20（10－6、10－10）16 チェコ

ユーゴ 15（6－2、9－6）8 デンマーク

ユーゴ 26（13－9、13－4）13 西ドイツ

チェコ 18（6－8、12－6）14 デンマーク

西ドイツ 26（12－11、14－7）18 デンマーク

ユーゴ 18（6－8、12－9）17 チェコ

【順位】①ユーゴ②西ドイツ③チェコ④デンマーク

アルジェリアが快勝
アフリカ競技大会・詳報

前号でお伝えした第2回アフリカ競技大会ハンドボール競技（1月7～18日・ラゴス）の記録が入電した。

本大会に出場したのは6ケ国だが、予選にはアフリカのほとんどの国が参加したと伝えられる。

優勝したアルジェリアは地区予選でオリンピック出場（16位）のチュニジアを降していたもの。

▽1回戦

エジプト 15－12 アルジェリア

セネガル 23－11 ナイジェリア

▽2回戦（シード国対1回戦の敗者）

アルジェリア 16－12 カメルーン

・アイボリー・コースト 27－11 ナイジェリア

▽準決戦

アルジェリア 17－14 セネガル

エジプト 15－13 ・アイボリー・コースト

▽3位決定戦

セネガル 15－13 ・アイボリー・コースト

▽決勝

アルジェリア 14（7－7、7－5）12 エジプト

ルーマニア（ジュニア）快勝
～ラテン・カップ～

ラテン系諸国によるラテンカップは4月18日から6日間、ルーマニアに6ケ国が参加して開かれた。

久々にヨーロッパに姿をみせたブラジルを除き、他の5ケ国はいずれも申し合せでジュニアチームを送りこんだが、さすがにルーマニアが層の厚いところをみせ各試合とも危気ない試合ぶりで快勝、首位となった。

ブラジルは6年前の世界選手権以来の空白期間があったが、ペルガモ、ウイリアム、マヤら秀れた攻撃力をもつ選手を揃えなかなかの試合ぶりだった。

ジュニア対策に力を入れているスペインが着々と地力をつけているのも注目してよいだろう。

		前半	後半			
フランス	23	12—7	11—6	13	ブラジル	
スペイン	16	8—8	8—5	13	ポルトガル	
ルーマニア	16	6—4	10—3	7	イタリア	
フランス	17	8—9	9—8	17	ポルトガル	引き分け
スペイン	24	10—7	14—2	9	イタリア	
ルーマニア	27	10—6	17—4	10	ブラジル	
フランス	22	9—5	13—4	9	イタリア	
ポルトガル	30	14—8	16—6	14	ブラジル	
ルーマニア	21	11—6	10—6	12	スペイン	
ブラジル	16	7—6	9—6	12	イタリア	
スペイン	18	8—7	10—8	15	フランス	
ルーマニア	25	10—3	15—2	5	ポルトガル	
ルーマニア	16	8—3	8—5	8	フランス	
スペイン	16	8—2	8—1	3	ブラジル	
ポルトガル	11	6—4	5—3	7	イタリア	

【順位】①ルーマニア5戦全勝②スペイン③フランス④ポルトガル⑤ブラジル⑥イタリア

イスラエル活発　来春の世界選手権のアジア代表をかけて日本と対戦（予選）の決まっているイスラエルは今シーズン盛んに国際試合を行っているが、このほどテルアビブにスイスを招き対戦、18—20で敗れた。

ステラら決勝へ　今シーズンのフランス選手権（全国リーグ）は4月7日で10クラブずつによるA、B両地区のリーグ戦を終了、Aはパリ大、CB・モンティーニュ、BはCSLディジョン、おなじみのステラ・サンモール（昭和39年来日）が1、2位となり5月12日からの決勝トーナメントへ進んだ。女子はすでに全日程を終了、ASU・リヨンが、決勝でES・コロムブスを7—6で破りチャンピオンとなった。

モントリオールも21競技？

一九七六年（昭51）モントリオール（カナダ）で行われるオリンピックについて、最近再びその開催について取り沙汰され、実施競技もいぜん煮つまっていないようだが、UPI＝共同電として4月26日付で各報道機関が伝えたところによるとキラニン国際オンリピック委員会（IOC）会長は「モントリオールの競技種目は21、そのプログラムはここ数ケ月のうちに完成されるだろう」と語ったという。

国際ハンドボール界は、モントリオールでもハンドボールの実施は動かないものと楽観している。女子ハンドボールの実施については昨夏8月のIOC総会で決定後（本誌101号参照）は、なんの情報ももたらされていない。

なお、ミュンヘンオリンピックの実施競技は競泳と水球を合わせて1競技とし21競技だった。

世界女子地域予選はじまる

今冬12月7日からユーゴで行われる第5回世界女子選手権の地域予選は、4月にはいり各地でいっせいに進められている。

好勝負とみられたチェコスロバキアースウェーデン戦は第1戦は女子にはめずらしい乱戦となり20—15でチェコ、第2戦もチェコが19—8で連勝した。ポーランドーオランダ戦は16—9、17—11でポーランドが快勝した。

なお、日本—韓国は本誌前号既報のとおり、韓国の棄権で日本が不戦勝、ノルウェー—フランス戦はフランス側の事情で延期またはフランスの棄権という情報がある。

地域予選を免除されているシード国はチャンピオンの東ドイツをはじめ、ユーゴ、ハンガリー、ルーマニア、西ドイツの前回の上位5ケ国。日本は本大会の予選リーグB組でルーマニア、ノルウェー対フランスの勝者と同組の予定。

H. ケスラー著

ハンドボールのA・B・C (2)

東京大学ハンドボール部訳
日本ハンドボール協会普及部監修

パス

パスは投げるパスと並んで、手をふって渡すパスが適当である。(図参照) 向いあった組を3m左におく。

課題として次のようなことを行なう。

対角線上のパートナーにパスし自分は、真直ぐに走る。パートナーにボールをころがしてパスをする。手前3mの所でバウンドさせパスをする。ボールを片手でパスする。そのとき手のひらにボールをのせ、投げる腕をのばし、パートナーの方向に振る。勿論右手でも左手でも練習をする。そのとき大切なのは、投げる腕の肩を十分後に引くことである。腰を振る両手パスは、全力で走っているときにパートナーにパスをする最も安全な方法である。特にポジションをかえるとき(クロス)たとえばスリークロス、5人クロスのときに使う。ボールはまず、両手でつかみ、一方の手を上に、他方の手を下にするようにする。たとえば左側の方へ投げるなら右手をボールの上におく。そのときボールの後にできるだけ長く両手をそろえておき、両手を相手の方に動かす。(図25・26A)バックパス(図26B)やバックシュート(バックパス)(図26C)は、学校では、特に才能ある生徒だけのものである。

段階的簡易ゲーム

これには、多くの段階があるがボールを扱う技術の巧さを試し、応用し、完全なものにするには適している。一般的には、小学校の最初の4年間に競技教育の基礎はつくられる。これが大きな試合の前提条件となる。しかし、大きな試合は、小学校の5年、6年以前に始めない方が良いと思われる。

よく知られた、走り戻る段階(図27)は非常に適している。隊列を走る線上に一列に並ばせる。各走者は、しるしのしてある折返し点までを往復し、次のパートナーにタッチし、くりかえす。(図27)

課題としては、次のようなものがある。折返し点までボールをもって行き戻ってくる。折返し点までボールをころがして戻ってくる。ボールをドリブルさせます。ボールを足でころがす。後向きに走りながらドリブルをする。スラロームを描いて走る。(パートナーや印となる棒の間を走る)少し大きくなった生徒は回転するリレー形式がより好きである。生徒は誰でも円を描いて走ることができる。運動場で生徒をコース上に等間隔に別け、たとえばドリブルのときには、生徒は次の走者にボールを渡す。出発点に第2走者を配置させておくとよい。最初の走者は2周して列に入る。このようにして、継続してリレーを行なう。

次のような課題をあげることができる。どの組が最初に5周走り終えたでしょう。

ボールの動きを変化させる段階は、それ自身上級段階向きである。組の生徒を一列に並ばせる。列生徒間の距離は、3mにとる。列の最後の者は、ボールができたら前に走りまた新たに始める。列の最初の者が再び先頭にきたとき課題が完了したことになる。(図28)課題として次のものを上げる。

頭ごしに後へのパスをする。次に股を通してのパスをする。一人が股を通し、次の者は、頭ごしにと後へパスとする。

左へ(右へ)腰を振って列の横をパスして行く。左、右交互に腰を振って列の横にパスをして行く。

一人の生徒が6m離れて集まっている列の前に、列の方を向いて立つ。列の先頭の者が、列の次の者にボールを投げることにより、ゲームが始まる。二人目の者がそれを返しその者は坐る。そして列の最後の者がボールをとったらその者は、前へ行きゲームの開始者の役割を引受ける。前に行った者が、第一番目の者となり他の者は皆立ち上る。(図29)

列の最後の者がすぐに2度目の

ゲームを始める。従って前の方に投げることにより、この同じ練習をくり返えす。このとき立ち上るのはボールをつかむ前になされる。そして最初の者がゲーム開始者となり最後までやった者は、列の最後部へ走る。シーソ型の練習では、組を1/4回転（列を左側に回せる。）させ、足を伸して坐らせる。組の最初の者と最後の者は、互いに向き合って、ひざまづく。ボールをもっている者が「足を上げて」といい、上げられた足の下を通して最後の者のところまでボールをころがし坐る。「足をおろして」とボールをとった最後の者がいい、組の者達の頭側にそって走り、「足を上げて」と新たな指示をだす。最初のゲーム開始者が自分の元の位置に戻ったときこのゲームは終る。（図30）

生徒と生徒の間を各々4mづつあけ、全員を立たせる。ボールは腰を振るようにしてパスをさせる。ボールを受けた最後の者は、「横になれ」といって横たわった者達をとびこえて、列の最初まで走る。最後の者をとびこえたとき「立て」といいまた同じようにボールをパスしていく。（図31）

必要である中休みには、ボール投げをすることができる。間隔を

とし、全員を円るく立たせる。一人おきに数える。最初の者と次の者が、各々の組をつくる。ボールを各々一つづつもち、各組で次から次へとパスをする。どのボールくどの人のところへ行くでしょう。(図32)

一人の生徒が組の者にできるだけ接近して円るく走る。その生徒はボールを一つあるパートナーに投げる。そして二つ目のボールを最初に投げた相手の隣りの者に投げ、1周したとき、1つ目のボールは、投げ返される。そこでそのボールを再び次の生徒に投げる。どの生徒が最も短い時間で2周することができるでしょう?(図33)このときのパスは、投げてもあるいは、腰を振って渡すパスでもよいでしょう。このゲームは、遅いパスではなく早いパスで行ない。しかもいつまでも、続けることができる。

〝のろま君〟が約7m四方のコート(14×7mの半分のコート)内に立っている。(コートの広さは年令や人員により変え、使われるボールの数には関係しない)相手の生徒にボールをぶっけることがチームの課題である。巧みな動きによって相手を投げ疲れさせたり、ボールをつかむことによってこちらのボールにする。ボールをぶっけられた生徒は、コートをでなければならない。しかし、外側のラインからゲームに加わり、その上相手にボールをぶっけることができる。このゲームのはじめ各チームは、相手コートのラインにゴールキーパーをおくがゴールキーパーは、ボールを投げてはいけない。そしてチームの誰かがボールをぶつけられコートをでたらゴールキーパーはコートに戻らねばならない。全員がボールをぶつけられたら敗けになる。(図34)この楽しいゲームの規則はいつも必要に応じて変えることができ、そうすることによって活気をなくさせる単調さは避けられる。

◎ボールをぶつけられた者は相手のコートのラインからボールをなげることができる。

◎プレーヤーは、ボールを手にもって3歩だけ走ることができる

◎ボールを落したら、ボールは相手のものとなる。

◎ボールをぶつけられ外にでていた者が相手にボールをぶつけたら自分のコートに戻ることができる。

◎ボールは、3歩以上もってはいけない。

◎2つの軽いボールを使う。

◎大きな跳び箱または、鞍馬を障害物としてコートに配置することができる。

ボール争奪戦(争球)は、明らかに団体ゲームの性格をもったゲームである。まずコートについて述べると、このゲームは、2つのゴールを使って行なわれ、どちらのチームも相手のゴールにボールを入れることを目的とする。一方のチームは、勿論相手側に一団となって攻めようとする。この際乱暴でない行為は、すべて許される。従って〝つかむ〟〝しがみつく〟〝押す〟〝地面に引倒す〟ことは許される。これらの攻撃に対して、速いパス、空いた場所の利用、敵から離れることによって当然免れることができる。ただ〝のろまな〟者達だけがつかみ合いをするのである。(図35)

ケゲルバル(ビョッケバル)は基礎的には、よく似ている。しかしボールは、膝より上にもちあげてはいけない。このときには、〝つかみ合い〟は、勿論やめる。(図36)

注　ケゲル…ボーリングのような競技のピンのことで、ボールをひざ下から投げるためこの名がついた。

ビョッケ…「かがむ」の意

坐りフットボール、すなわち蛛フットボールは、形態が非常に早く変るので、大変面白く、競争心を起させる。プレーヤーは立上ってはいけない。また手が床から離れてはいけない。坐りながら頭でボールを扱うときには、手が床から離れても仕方がない。運動が好きなプレーヤーはこのゲームの運動形成要素を素速く理解する。(ゴールはやや巾の広いものを選ぶ。プレーヤーの数に従ってより多くのゴールキーパーを置く。)(図37)

リングホッケーという名からある競技形態を理解できるが、それは運動器具の用途以上に重要なことである。体操用スティックとゴムのリングでこれは、競技される。スティックでリングを動かすが、3歩動いた後リングは、パスされなければならない。(図38)ゲームの開始のときと、反則のときにブリーがある。(ブリー…ホッケー用語でホッケーの開始のときの行為をブリーオフという)。双方のプレーヤーの配置は、ホッケーの場合と同様、互いに顔を向い合わせて行なわれる。各々が床の上でリングの右側にスティックをもち相手のスティックと3回叩く。こうしてゲームは始まる。(図39)

ルールの要点として次のことが挙げられる。スティックは、腰より高く振り上げてはいけない。相手のプレーヤー2人がリングにスティックを入れたらブリーになる。アイスホッケーのときと同様に、ゴールの後まで広く使ってプレーしてもかまわない。いつも状況に従って、ルールの形態は指導者に任される。

シュートをともなったヒモ越しでのボールは高い練習価値がある。また好んでプレーされる。ボールを投球線から他のコートへもしくは、ゴールの中へ投げようとする。相手がボールをキャッチできず、ボールが、地面に落ちたら1点となる。ゴールインは、3点に数える。(図40)この練習の段階は、1つの刺激として考えられたものである。

サルの目をもったプレーは学校における指導の目標であり、ナショナルチームのプレーヤーについても同じことである。味方および敵のプレーヤーを注意することは、有効なチームプレーにとっての前提条件である。そしてこのチームプレーは、個々のプレーヤーの力とスピードと技術によって変えることができる。ボールを所有することとボールを失うことは、ゲームにおけるチームの行動の様式を決定する。これらが攻撃と防禦を引き起し、各プレーヤーにその任務を与える。だからプレーヤー達がそのプレーの任務に親しむようにしよう。

そこで人気のある〝せっかち〟君に登上してもらう。

〝せっかち君〟に対する指示

彼には、自由に走り回ってもらう。そして敵のプレーヤーとの身体接触は、控えてもらう。彼に目

をしっかりと開き、防ぐ領域と防がない領域とを区別することを学んでもらう。〝のろま君〟だけが防ぐ領域内に立つ。（図42）みること、注意すること、正しくパスをすることを最初に3人のオフェンスと1人のディフェンスで練習をする。次に2人目のディフェンスを入れ、最後に3人ずつの2組をつくる。この2組は、ボールをもっているかいないかによって防禦したり、自由に走りまわって攻めたりする。そこから、各チームプレーに独特の三角プレーや、味方に調子を合せようとする必要性が生まれてくる。われわれは、味方がボールをもっているかどうかをプレーヤーとして自問する。彼が何を意図しているのか？

自分はいかにして、彼と協力して攻撃を始められるか？　パートナーがパスをするには、自分はどこにいなければならないか？（図43）

自分自身でボールを所有する。敵にボールを奪れたり、パスのときにボールをカットされないようにするには、どうしたらよいか。（図44）。そしてボールをもっている味方と敵にマークされている味方の2人が何かを始めようとするとき、3人目のプレーヤーとしての自分はどうすればよいか。そのとき2人が走るのを決して妨げてはいけない。学校での生徒達のプレーをみれば全員が目くらのように真中に突進してゆくのがわかる。それによって敵の防禦を助け敵のプレーヤーは、最小限の注意をはらえばよいことになる。（図45）コートを通して与えられた空間を使いこなすことは、攻撃するプレーヤーにとって最も重要な課題であるし指導者にとっても技術指導の最大の課題となる。「場所を保持すること」に関することに関する定った指示だけでは、十分でないのである方法を用いる。それはハンドボールの父カール・シェレンツによってすでに40年前に適用され、プレーヤーに常に気をつけるべき場所を思い出させる。（図46）

われわれは、全コート上に線を引きプレーヤーに対して、その中で動くように命じる。すぐとなりにいるプレーヤーと場所を交代するときには、その線も交換されることになる。それは最初運動の可能性を削減するようにみえる。しかし、われわれはまず最初プレーヤーに指令によって運動の可能性を細長い区域を十分活用するよう

に強制する。そしてプレーヤーは何よりもボールなしで練習しなければならない。そこでボールをドリブルしてではなく（図47）できるだけボールなしで走る。そうすればボールがパスされれば、われわれは力のこもったシュートに結びつけることができる。しかし真の喜びは、まずプレーヤーの攻撃がいり乱れて走りまわるときにある。そして素早く場所を交代しプレーすることによって全体の攻撃の活気が生じ、運動気分を高める。そこでスリークロスを導入してみる。3人のグループをつくりまず初め生徒達に互いにボールを投げながらコートを走らせる。そのとき好きなように走らせボールは常に動かすように指示する。走りに秩序をもたせる。3人のグループの中で常に中央のプレーヤーがボールをもつ。ボールをもった者は、左側のプレーヤーにボールをまわす。この者は、ボールを受けとり1人残ったプレーヤーにボールをまわす。この課題には、1人のプレーヤーによって2倍の細長い地区が使われ、中央の地区はできればただ走りぬけるときだけ利用されるという意図がある（図48）このときボールをまわすことのみでなくドリブルも使用する。一度ドリブルした後ではボールをパスしなければならないという課題を与える。それに常にボールを味方にみえるようにしておくことが大切である。そのためには、味方の前を走りすぎることになり、これは、有効な攻撃技術で相手側のバックスの中に切りこむことになる。場所を交代したプレーヤーだけが素速く走りそのとき他の人は場所の交代（クロスプレー）を容易にするため走りをおさえる。左へ走るとき左側でドリブルし左側から、（図49）振り返る。パスは投げたり、腰を振る投げ方によって行なう。スピードは攻撃のときの切り札ですが、それは速く走ることよりもむしろボールの速いパスにある。そして防禦するときでも、ますますこの文章は意味をもつ。すなわち、規定された区域のことがますます攻撃側にとって困難なものになる。

防禦についての説明

しかし実際どのようにして防禦の練習をすればよいでしょう？全く簡単なことである。よく得点するのに役立ない生徒が防禦に配置されている。（図50）指導者のこの設定は誤っている。最も敏速で運動神経のよいプレーヤーがディフェンスプレーヤーでなければならない。そのようなディフェンスが相手の攻撃プレーヤーの活動を鈍らせ無理な状態でのシュートを誘う。勿論前もって彼らに自分達の課題の準備をさせておくのを前提とする。プレーの戦略的基礎がチームの能力構成に対して優位にあるわけではないというのは個々のプレーヤーのプレー能力がよい基礎を与えてはじめて戦略的な基礎が有効になる。とにかくチームのプレーヤーの中からディフェンスプレーヤーを養成してみよう。1組のボールプレーたとえば4対4のボールプレーから始めてみよう。（図51）

白いユニホームのチームがボールをもっている。そのときただ一回のドリブルが許される。黒いチームは、規則に従ってボールを取ろうとする。ディフェンスプレーヤーに対する最初の要請は、次のとおり。各防禦者は相手のプレーヤーに接近しようとしなければならない。それに対して攻撃者は、ボールを運びプレーし終えることができるように、相手のプレーヤーとの距離をとらなければならない。そして攻撃プレーヤーは自在に走らなければならない。

防禦プレーヤーは何に気をつけねばならない。防禦プレーヤーは走りながら相手プレーヤーを制御することを学ばなければならない。敵に対する妨害はできる限りパスする側の手に試みるべきである。プレーヤーがもっと確実にボールをカットできるように、腕の内側を相手の背中にまわしておくことを許す（図53）勿論腰をつかむことは許さない。ここにおいてプレーヤーは、相手との位置のとり方を練習しますし走るリズムを理解しボールをつかめるかもしれない腕間を覚える。ボールが床から跳ね戻ってきたときに最も有効に起る（内側の手で行なう。図55）そしてもう課題達成への道は遠くない。一人の攻撃者と防御者をお互いに対面するように設定し次のことを要請する。

攻撃者は、ゴールにシュートしようとし、防御者は、それを妨がねばならない。

ゴールキーパーについての説明

キーパーが役に立たずあるいはキーパーとバックスとの連けいがないときは、個々のバックスがよくても、それは役に立たない。最初キーパー練習は独立して行わなければならない。それは大変面白いので少年達は喜んでゴールに立つであろう。とにかく砂場（ジャンプして倒れても丈夫な所）を使って十分にジャンプさせる。高いボールのときゴールキーパーは、ボールの後に手をもってゆくようにしなければならない。ジャンプするときは、体の正面をボールの方へ向けなければならない。（図56）横とびしてボールをとるときは腹から落ちてはいけない。ゴール内で立つ位置は〝技術的な真中〟でなければならない。キーパーはシューターと両ゴールポストを結ぶ線内に立つ。ゴールキーパーの位置はその二等分線上になる。これが、〝技術的な真中〟となる。（図57）なげやりなプレーはキーパーとディフェンスの連けいプレーとはいえない。連けいプレーは、味方と敵の位置がキーパーにとって大切なことである。各々の意志の疎通をうまくするためには、自分の義務を果さなければならない。少なくともディフェンスがシューターの投げる腕側を防ぎそれによってゴールの角度が安全となる。キーパーは、はじめから危険な方のゴール半分の防御に集中できる。フリースローのときも同じである。（図58）

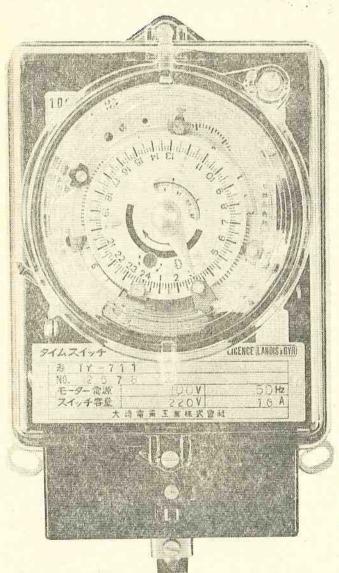
ディフェンスとオフェンスのいる実際の練習効果を上げることができる。そして次のことを考慮しなければならない。右半分からシュートされる場合キーパーはどの位置に立てばよいか。左半分からのときはどうするか堅い角度からシュートされる場合はキーパーはどの位置に立てばよいか。

さあ、それではプレーに移る。コートの広さは場所による。ゴールのかわりに棒を立ててもよい。

Osaki

タイムスイッチ

TYシリーズ

24時間では足りないあなたに1日＝72時間

大崎タイムスイッチならそれが可能です。毎日、毎週、毎月、定時刻に自動的にスイッチを〈入・切〉するあらゆる設備機器や年間の日没・日出時刻に応じ、自動的に照明を〈入・切〉する場合に最適です。

大崎電氣工業株式會社

〒141 品川区東五反田2丁目2番7号 TEL.03（443）7171番

男子・小倉西、女子は大分東勝つ

第1回 九州選抜高校生

第1回九州選抜高校生選手権大会は3月25日から3日間、福岡・小倉西高校で行われた。

参加チームは男子が九州7県17校と山口から特別参加した2校、女子は九州7県14校で新シーズンを前に熱のこもった試合をみせた。

男子は予選リーグのあとビッグフォアによる決勝トーナメントの結果、ホームコートの小倉西（福岡）が決勝で岩国（山口）の追いこみをかわし優勝、女子は予選ラウンドのあと2組に分かれた準決勝リーグで勝ちあがった大分東と島原農（長崎）が優勝を争い大分東が逆転勝ち、栄冠を手にした。

▽男子予選リーグA組

小倉西（福岡） 6－5 水俣工（熊本）
泉ケ丘（宮崎） 13－4 下関中央工（山口）
小倉西 19－7 宗像（福岡）
水俣工 14－12 泉ケ丘
宗像 7－6 下関中央工
小倉西 13－7 泉ケ丘
水俣工 9（分）9 宗像
小倉西 9－7 下関中央工
宗像 17－9 泉ケ丘
下関中央工 10－9 水俣工

【順位】①小倉西②宗像③水俣工④下関中央工・泉ケ丘

▽同B組

若松（福岡） 8（分）8 大分東（大分）
口加（長崎） 16－7 日南工（宮崎）
博多工（福岡） 8－5 若松
大分東 16－10 口加
博多工 13－4 日南工
口加 14－8 若松
大分東 20－7 博多工
若松 9－7 日南工
口加 12－5 博多工
大分東 17－4 日南工

【順位】①大分東②口加③博多工④若松⑤日南工

▽同C組

小倉工（福岡） 18－2 佐賀商（佐賀）
岩国（山口） 13－10 熊本一工（熊本）
西南（福岡） 9－5 小倉工
熊本一工 24－4 佐賀商
岩国 12－4 西南
熊本一工 12－11 小倉工
岩国 15－2 小倉工
西南 13－6 熊本一工
西南 14－1 佐賀商
岩国 16－2 佐賀商

【順位】①岩国②西南③熊本一工④小倉工⑤佐賀商

▽同D組

財部（鹿児島） 10－9 門司（福岡）
鶴崎工（大分） 20－5 香椎（福岡）
鶴崎工 11－4 門司
香椎 17－16 財部
香椎 10－7 門司
財部 10－7 鶴崎工

【順位】①鶴崎工（得38、失19）②財部（得36、失33）③香椎（得32、失43）④門司

▽決勝トーナメント1回戦

小倉西 12（3－7、9－4）11 大分東
岩国 13（9－3、4－8）11 鶴崎工

▽同決勝

小倉西 10（7－2、3－7）9 岩国

▽女子予選ラウンド

佐世保商（長崎） 4－2 福岡女商（福岡）
熊本市立（熊本） 13－3 泉ケ丘（宮崎）
大分東（大分） 11－5 筑紫女（福岡）
国分実業（鹿児島） 5－1 福岡女（福岡）
島原農（長崎） 3－1 熊本女商（熊本）
小林商（宮崎） 10－5 明善（福岡）
別府青山（大分） 11－2 神埼農（佐賀）

▽同準決勝リーグA組

熊本市立 10－1 佐世保商
大分東 16－4 国分実業
熊本市立 11－7 国分実業
大分東 10－9 熊本市立
国分実業 10－8 佐世保商
大分東 16－6 佐世保商

【順位】①大分東②熊本市立③国分実業④佐世保商

▽同B組

島原農 7（分）7 小林商
島原農 6－5 別府青山
別府青山 8－6 小林商

【順位】①島原農②別府青山③小林商

▽同順位戦・5～6位決定戦

国分実業 13（5－1、3－7、4－0、1－3）11 小林商

▽同3～4位決定戦

別府青山 12（6－3、6－2）5 熊本市立

▽同決勝戦

大分東 6（1－3、5－1）4 島原農

▽同予選ラウンド敗者によるコンソレーションマッチA組　福岡女商9－7泉ケ丘、福岡女商10－2筑紫女、福岡女9－6泉ケ丘、筑紫女7－1泉ケ丘、福岡女商7－5福岡女、福岡女8－3筑紫女

▽B組、熊本女商11－7神崎農、神崎訪8－5明善、熊本女商10－2明善

各地の記録

茨城教員、順当勝ち

▼茨城県春季一般選手権（4月・原研球技場）

▽準決勝

茨城教員 20－2 土浦三高O.B
茨城大 10－8 常陽銀行

▽決勝

茨城教員 15（6－5、9－3）8 茨城大

大同製鋼、危気なし

▼第5回林会長杯争奪愛知実業団リーグ（兼第27回愛知県実業団リーグ）（4月・名古屋市体育館）

三友工業　　―　ブラザー工業
大同製鋼　30―10　三友工業
トヨタ自工　18―10　ブラザー工業
大同製鋼　22―17　新日鉄名古屋
新日鉄名古屋　11―10　三友工業
新日鉄名古屋　23―10　トヨタ自工
新日鉄名古屋　30―6　ブラザー工業
トヨタ車体　18―15　新日鉄名古屋
トヨタ車体　30―16　ブラザー工業
三友工業　39―21　トヨタ自工
トヨタ車体　26―9　トヨタ自工
トヨタ車体　26―13　三友工業
大同製鋼　33―11　トヨタ自工
大同製鋼　31―9　ブラザー工業
大同製鋼　28―11　トヨタ車体

【順位】①大同製鋼5戦全勝（林杯には5連勝。県実業団リーグには10連勝、通算12度目の優勝）②トヨタ車体4勝1敗③新日本製鉄名古屋3勝2敗④三友工業⑤トヨタ自工⑥ブラザー工業

▽2部1位決定戦
大同製鋼星崎　38―11　パイロットインキ
▽同3位決定戦
豊田工機　18―17　日本碍子
▽同5位決定戦
アイシン精機　20―18　三菱重工
▽同7位決定戦
タヨシ産業　22―16　中部電力
▽1・2部入れ替え戦
大同製鋼星崎　20―12　ブラザー工業
（2部）　　　　　　　（1部）

大同製鋼22連勝

本誌の調べでは大同製鋼（愛知）は昨年12月10日の第24回全日本総合選手権最終日（東京体育館）大崎電気に13―12で勝って以来、前掲の愛知実業団リーグ（4月27日終了）まで公式戦22連勝をマークした。このなかには西ドイツの強豪FA・ギョッピンゲンからの金星もふくまれている。

女子はブラザーが楽勝

▼愛知県女子実業団リーグ（4月名古屋市体育館）

ブラザー工業　―　豊田工機
ブラザー工業　33―3　伏原紡織
豊田工機　11―4　伏原紡織
伏原紡織　10―8　豊田工機
ブラザー工業　23―4　伏原紡織
ブラザー工業　20―2　豊田工機

【順位】①ブラザー工業勝ち点2②豊田工機③伏原紡織

天城と真備勝つ

▼第28回岡山県高校優勝大会（4月・操山高）

▽男子準々決勝

昭和48・49年度　日本協会専門担当理事に新構想を聞く②

中学部　栗脇　凝

前学習指導要領にハンドボールがしめだされて以来、地域的には中学の大会を依然として実施していたところもあるようですが、全然実施していないところもあり、全体的な動きを知らないで、昨年度新指導要領に採入れられたのを頼みのつなとして、第一回中学生ハンドボール大会を実施しましたが、全地域よりの参加を得たことと、その技術が非常に高いことを知って驚き、且喜こんだものです。

本年度第二回は昨年と同じ場所で行われるが、日本協会の機構の中に中学部も特別に設置されたことであるで、昭和四十八、九年度の目標として次のことを考えている。

(1)　中学部としての全国組織を無理のない形態で作りあげる。

これは昨年の大会準備に照し合せて、是非とも実行したいものと考えている。そのためには全国九ブロック毎の組織の確立を出発点として、これができ上れば、全国的な組織は直ちにつくれるのではないか、と思う。

(2)　中学生のチーム作りを土台として、社会体育への移行が可能になる様にはできないか、を全員で考えたい。

昨年度の大阪のチームの如く、混成で参加ということはこの問題について考えさせられる面を持っているのではないか。特に中学校が少い地区においては、地区自体でスポーツ・クラブを結成する基礎として考えることができないか等と考えており、現在日本全体で少しずつ進んでいる社会体育への移行へ少しでも力をかすことができれば、と思っている。

これらの目標を達成するというか、進めるうえにおいて、中学部における行事としては、全国中学生ハンドボール大会の開催以外にはないので、この大会の開催に全力を傾利し、昨年の第一回以上に成果をあげたいと考えている。

その他、中学生に対する指導とか、指導者に対する講習会とか、協会の普及部との関係ででてくるものもあるが、組織の確立と全国大会の開催だけは少なくとも実施したいと考えている。

新設の部でもあり、従来あまり極積的に進められてきた部門でもないので新しい問題が次々に起ってこようが、これを機会にしっかりした基礎を作っておきたい。

終りに全国の中学生以下の人達に対する対策として、よい御意見があれば、中学部へ御連絡下されば幸甚です。

天城 10—3 操山
倉敷商 7—6 倉敷工
金川 9—7 青陵
津山工 9—8 児島

▽同準決勝
天城 10—7 倉敷商
津山工 13—10 金川

▽同3位決定戦
倉敷商 12—5 金川

▽同決勝
天城 15（8—7、7—6）13 津山工

▽女子1回戦（1試合）
金川 11—10 落合

▽同準決勝
真備 16—7 金川
津山商 12—4 岡山女

▽同決勝
真備 9（5—4、4—3）7 津山商

投書欄　明日への提言

全日本のサーキット復活を

ミュンヘンオリンピックの前だと思いましたが、ナショナルチームが「国内サーキット」とタイトルして各地を巡回したと思います。

その後こうした事業がないのは大変残念なことで、是非復活していただけませんでしょうか。

できることなら4月か5月に実施したらいいと思います。というのは、試合のあとで地元の高校選手などを指導して下さったり、公開練習して下さると大変意義があるからです。

また、ハンドボールの場合、テレビ中継があまりないのでナショナルプレイヤーを活字だけで知っていて、実際に選手を見たことのない人が地方には沢山います。全日本の選手を身近かに知れば国際試合の時などでもこれまで以上に応援に熱がはいるのではないでしょうか。

選手の人たちは会社などを休まなくてはならず大変だと思いますが、ナショナルチームの国内サーキットを再開して欲しいと思いペンをとりました。【宮城・K子＝匿名希望】

当欄への投稿を歓迎します。用紙自由、ただしタテ書き。締切日も特に設けません。日本協会編集部あてにどうぞ。

奈良は男女とも添上

▼奈良県春季高校選手権（4月・添上高）

▽男子準々決勝
生駒 17—3 育英
添上 12（延）11 奈良
一条 10—8 東大寺
榛原 28—8 正強

▽同準決勝
添上 6—5 生駒
一条 14—10 榛原

▽同3位決定戦
生駒 23—6 榛原

▽同決勝
添上 20（10—3、10—4）7 一条

▽女子1回戦（2試合）
添上 4—3 郡山
生駒 13—8 奈良文化女短大附

▽同準決勝
添上 14—6 桜井商
一条 16—10 生駒

▽同決勝
添上 15（7—4、8—5）7 一条

住友化学、抜きん出る

▼第28回愛媛スポーツ祭ハンドボール競技（4月・松山北高）

▽男子準々決勝
松山北高 26—3 松山商高
住友化学 38—6 松山商大
松山工高 14—11 新田高
丸善石油 25—9 愛媛大

▽同準決勝
住友化学 17—8 丸善石油
松山北高 14—7 松山工高

▽同決勝
住友化学 19（9—4、10—5）9 松山北高

▽女子1回戦（いずれも高校）
大洲農 12—7 東温

▽同準決勝
松山商 8—5 新居浜東
新居浜商 21—2 大洲農

▽同決勝
新居浜商 9（4—2、5—0）2 松山商

岩手理事長に太田氏新任

岩手協会はこのほど新年度役員を次のように発表した。

▽会長　菊池慶一郎▽副会長　千葉富彦、中川米治、小田島実、佐藤敦、箱崎敬吉▽理事長　太田利彦▽総務部長　赤沢智▽審判部長　佐々木茂喜▽競技部長　加藤欣哉▽技術部長　北村尚英

福岡協会新事務局　福岡協会の新しい事務局住所は次のとおり。

北九州市戸畑区丸町3丁目、戸畑工業高校内（電・881—三八六八）

北海道協会も変更　北海道協会は事務局を次の住所に変更。

札幌市中央区南8条西2丁目、札幌星園高校内

（電・511—四五六一）

編集後記にかえて

編集長を辞めるにあたつて

今回、勤務の都合で、東京を離れることになり、辞めることになりました。

永年の御協力を感謝するとともに、充分に意のつくせなかったことを残念に思っています。

6年、60回を越える雑誌を編集してこられたものだと今更ながら皆様方の協力に感謝しています。

ああもしておきたい。こうもしていきたいと思いながら、とうとうできずにおわってしまったものもかなりあります。

今後とも、ハンドボール界の唯一の雑誌として、新しい企画のもとに益々この雑誌が発展していくことを期待しています。

また、ハンドボール界のみならず、すべてのスポーツ界が現今の社会・政治情勢に左右されざるを得ない現実、これに対していかに処していくべきかを、スポーツにたずさわっている皆が考える時になっているようです。

ある大会が開かれる。これが何を意図して企画されているのか等々に関しても、十分に吟味していく必要があるように思えます。

ハンドボールプレーヤーである前に一人の人間であるのですからやはり、社会政治などの問題にも常に関心をもっている必要があるのではないでしょうか。そういう局面に直面して、アタフタすることのないように、平素から、それぞれが自分で判断できる素地を作っておかなければならないのではないでしょうか。

藤本　強

日本ハンドボール協会編
『ハンドボール』
第一〇八号
昭和四十年六月七日 第三種郵便物認可
昭和四十八年四月二十五日印刷 昭和四十八年五月一日発行
発行所 日本ハンドボール協会
東京都渋谷区神南一ー一ー一
電話 大代表(467)三一一一
振替東京五八三四八番
編集兼発行人 保坂周助
定価二百円
(年間購読料千八百円)